

小諸市学校再編計画

令和5年7月25日
小諸市教育委員会

小諸市学校再編計画 目次

第1章 計画策定にあたって

1. 背景・目的-----	1
2. これまでの取組経緯-----	1
3. 小諸市の目指す教育「心豊かで自立できる人が育つまち」 への歩みとこれから-----	3
4. 目指す教育を実現するための望ましい教育環境の確保-----	5
5. 学校施設整備方針-----	7

第2章 学校を取り巻く現状

1. 施設の概要-----	10
2. 施設配置-----	10
3. 児童生徒数の推移と将来予測-----	11
（1）市全体	
（2）中学校区別	
4. 通学路の状況-----	12
（1）芦原中学校区	
（2）小諸東中学校区	

第3章 将来推計に基づく課題の整理と改善の方向性

1. 児童生徒数・学級数の変化、教職員数の変化-----	14
（1）芦原中学校区	
（2）小諸東中学校区	
2. 現状を今後も維持していく場合の課題と 再編までに今後行うべき対応-----	16

第4章 学校再編計画

1. 学校再編計画-----	18
----------------	----

第5章 芦原中学校区再編計画

1. 現在の学校施設の状況-----	19
2. 芦原中学校区再編計画について-----	20
（1）計画条件・ポイント	
（2）建物配置案とゾーニング案	
（3）活用イメージ	
（4）コスト把握・比較	

第6章 小諸東中学校区再編計画

1. 現在の学校施設の状況-----	25
2. 現状を今後も維持していく場合の課題と 再編までに今後行うべき対応（第3章より再掲）-----	26
3. 小諸東中学校区の検討の方向性および再編の進め方-----	27

第7章 今後に向けて

1. 小中一貫教育の推進-----	29
2. 今後の検討課題-----	30
3. 各項目の検討の方向性例-----	31
（1）2つの中学校区のコミュニティ・スクール（地域拠点） の方向性の検討について	
（2）スクールバスの検討について	

参考資料

1. 「小諸市立小中学校の改築・再編について（答申）」令和3年4月14日
2. 「望ましい学習環境」の見える化（小諸市学校教育審議会答申資料）
3. 小諸市学校再編基本構想

第1章 計画策定にあたって

1. 背景・目的

今の子どもたちが社会に出て働くころには、定年70歳時代になると言われている。社会はグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により急速に変化している。このような時代にあって、学校教育には、子どもたちに50年間働く礎となる資質・能力を育てていくことが求められている。

一方、小諸市内の小学校の多くは、建物が建築後 40 年以上を経過し、施設の老朽化が進行している。また、全国的に進む少子高齢化は小諸市も同様であり、児童生徒数の将来推計をみると、単学級の小学校が増えることが予想される。

これからを生きる子どもたちの資質・能力を育てるためには「どのような教育、教育環境が必要か」また「そのための学校施設はどうあるべきか」について、平成 28 年より検討を重ねてきた。

これまでの熱心かつ慎重な議論を踏まえ、小諸市教育委員会は、子どもたちの資質・能力を育てるための教育の実施及び学校施設の改築・再編を目的として「小諸市学校再編計画（以下「本計画」という。）」を策定することとした。また、本計画は作って終わりということではなく、社会状況の変化や児童生徒数の変化等に柔軟に対応しながら更新を重ね、子どもたちのより良い環境づくりのために学校再編を進めていくものである。

2. これまでの取組経緯

小諸市教育委員会では、平成28年の小諸市長期学校改築計画検討会を経て、平成30年11月には「小諸市学校改築・再編基本方針」を定めた。この方針を基に、より具体的な改築・再編計画の推進を図るため、小諸市学校教育審議会に諮問し、令和3年4月に「小諸市立小中学校の改築・再編について（答申）」が示された。小諸市教育委員会では、この答申を受け、子どもの学び、成長を第一に考え、財政的な要素等も検討事項に加えたうえで議論を進め、令和4年6月「小諸市学校再編基本構想」としてまとめた。

令和4年8月には「小諸市学校再編基本構想」を基に本計画を策定するにあたり、広く市民の意見を取り入れるため、小諸市学校再編計画検討懇話会を立ち上げた。

この間の取り組みにおいては、教育や建築関係の有識者をはじめ、学校長や保護者、地域の代表の方々にもご参加いただき、さまざまな観点からの協議を行ってきた。また、各段階において、市民説明会の実施や広報等により、市民の皆様には状況をお伝えし、ご理解いただけるよう努めてきた。

上記の取り組みの経緯について、次のとおり時系列にまとめ、要点を整理した。

H28年12月
～
H30年1月

【全13回】

●小諸市長期学校改築計画検討会【提言】

【提言 1】少子化の進展に対応した小中学校のあり方

- ・未来に生きる小諸市の子どもたちのために、学校教育の変化や多様な子どもの教育的ニーズに対応できる学習環境を整える。

【提言 2】望ましい小学校の規模

- ・1学級：20～30人前後 1学年：少なくとも2～3学級
- ・小諸市の子どもたちにとって「望ましい学校の姿（※1）」の実現のため、市内小学校は再編が必要な状況である。
※1「望ましい学校の姿」は以下の通り。
 - ・クラス替えができ、多くの個性に接することができる。
 - ・のびのびと自分を表現でき、子ども同士の学びがある。
 - ・教育の変化に対応した十分な教員の確保と質の高い指導が望める。
 - ・施設設備が整い、安心して勉強できる環境である。
 - ・安全に通学することができる。
 - ・活気ある学校行事ができる。
 - ・個々の子どもに目が届き、様々な子どもの教育的ニーズに対応できる。

【提言 3】小中学校の配置及び校区について

- ・区の中で学校が複数校に分かれることのないよう、学校再編とあわせて通学区の見直しも検討する。
- ・小中一貫教育制度のあり方についても検討する。
なお、学校再編にあたっては通学路の安全確保や遠距離通学に配慮すること。

H30年11月

『小諸市学校改築・再編基本方針』小諸市教育委員会

(1) 基本的な考え方

- ・未来に生きる小諸市の子どもたちのために、学校教育の変化や多様な子どもの教育的ニーズに対応できる学習環境を整えることを最大の目的として、学校施設の改築・再編を進める。
「小諸市で育つ子どもたちにとって『より望ましい学校の姿』はどうあるべきか」という視点を最優先として議論を進める。

(2) 望ましい小学校の規模

- ・望ましい小学校の規模は、「1学級の児童数が20～30人前後」で「1学年の学級数が少なくとも2～3学級」とする。小諸市の子どもたちにとって「望ましい学校の姿」の実現のために、市内小学校の再編が必要な状況であることを明確化する。

(3) 小中学校の配置及び校区

- ・区の中で学校が複数校に分かれることのないよう、学校再編とあわせて通学区の見直しも検討する。
- ・小中一貫教育制度のあり方について検討する。
- ・学校再編にあたっては、通学路の安全確保や遠距離通学に配慮する。

H31年3月
～
R3年4月

【全21回】

●小諸市学校教育審議会【答申・望ましい学習環境の見える化】

✓ これからの時代を生きる児童生徒が育つ「より望ましい学校の姿」

- ・“児童生徒「一人一人」の学びを支える 教育 の推進 を図る学校”

✓ 児童生徒一人一人の学びを支えるもの

- ・児童生徒を支えるのは学校職員、保護者、地域（市民）であることはもちろんであるが、求められる資質・能力（学力）は、大人が知識や技能を教え励ますだけで身に付けさせることは難しい。子どもの心の育ち（非認知的能力）、言語の育ち（言語能力）が子ども自身の学びを支え、資質・能力（学力）を伸ばす。

✓ 「より望ましい学校の姿」の実現を図る学校運営のあり方

- ・小中9年間を通して連続的・系統的に実践する一貫性のあるカリキュラムをつくり、一貫性のあるカリキュラム・マネジメントを推進する。
- ・児童生徒を支える活動への市民参加と信州型コミュニティ・スクールの組織の充実
- ・ICT機器の活用等

✓ 学びを支える環境を整える（合理的配慮、ユニバーサルデザイン）

✓ 施設一体型の義務教育学校にすることが理想的

- ✓ 小学校・中学校間で一貫したカリキュラム・マネジメントを推進するためには、芦原中学校と小諸東中学校を学区とする併設型小学校・中学校の形態で小中一貫教育を推進することが望ましい。

H31年 3月
～
R3年 4月
【全21回】

●小諸市学校教育審議会【答申・望ましい学習環境の見える化】つづき

✓ 芦原中学校区の小学校再編

- ・芦原中学校区の小学校の再編は、3校を統合し1校とすることが望ましい。
- ・小規模化は、すでに進行しており、専科教員の確保も課題となってきた。
- ・学校の再編統合はまったなしの状態であり、一日も早く進める必要がある。

✓ 小諸東中学校区の小学校再編

- ・小諸東中学校区は野岸小学校、東小学校を統合した小学校と美南ガ丘小学校の2校に再編することが望ましい。
- ・再編に当たっては校舎の耐久年数を考慮するとともに、今後の児童減少の推移を慎重に見定め、ICTを活用した遠隔授業の導入や少人数学級編成等も踏まえた国の方針を見極めながら進める。

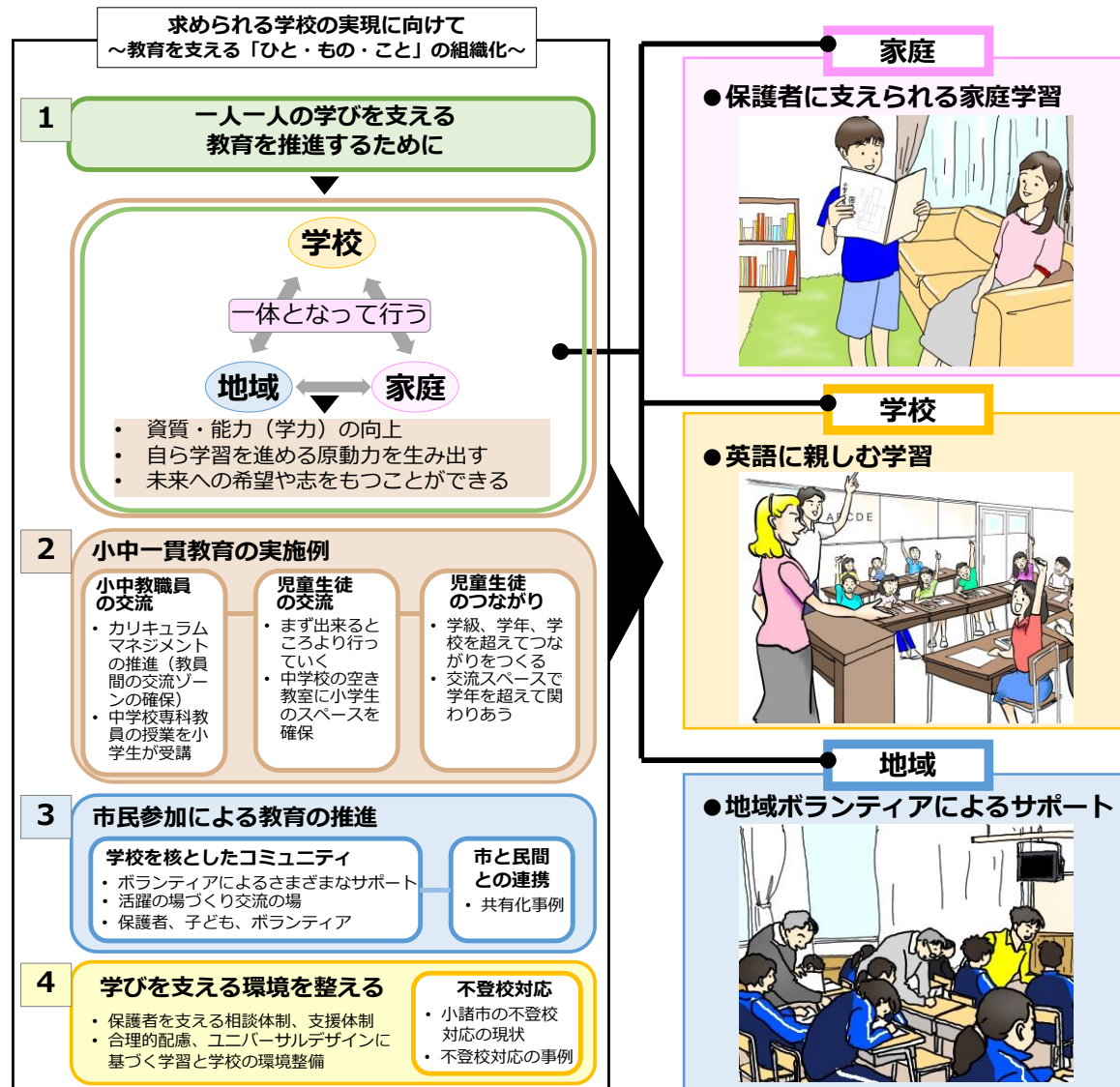
✓ 再編に伴う配慮事項及び望ましい学校の実現に関わって

- ・新校建設は中学校隣接か近い距離が望ましい。
- ・新校を設計する場合は求められる教育の具現化を図る視点で進めたい。
- ・スクールバスの導入を児童の様々な状況に配慮して進めたい。
- ・通学路の安全確保の取り組みを進めたい。
- ・小諸市独自の取り組みにより教育を魅力的なものにしたい。
- ・一貫性ある教育の具体的な取り組みを早く実施に移したい。
- ・学校と地域がパートナーとして連携・協働する組織づくり（地域学校協働本部等）と、地域（市民）と児童生徒が交流できる学校づくりを進めたい。

✓ 通学区の見直し

- ・芦原中学校区と小諸東中学校区とに重なる荒町区、八幡町区、赤坂区、古城区、南町区は芦原中学校区の小学校再編と同時期に、また、乙女区は小諸東中学校区の再編と同時期に通学区の見直しを行うこととする。

【望ましい学習環境の見える化】



R3年 5月
～
R4年 7月
【全25回】

●小諸市学校再編計画検討会

- ・小諸市学校教育審議会から答申を受け、学校再編検討会を開催し、学校再編基本構想の策定に向けて、特に小中一貫教育や通学区の見直しや通学手段の考え方、市長部局（公共施設マネジメント）との連携などについて、協議を行った。

R4年 6月

『小諸市学校再編基本構想』小諸市教育委員会

【学校再編】

「学校改築・再編基本方針」でも示した望ましい学校の規模である1学級20～30人前後、1学年少なくとも2～3学級を維持するために、中学校区ごとに再編を進める。
芦原中学校区の坂の上小学校、水明小学校、千曲小学校の3校については、次の点について考慮しながらも喫緊の課題として早急に再編統合を進める。

- ・芦原中学校に可能な限り近く、既存3小学校からなるべく離れないこと。
- ・校地は全ての施設を含め25,000㎡程度を確保できること。
- ・児童生徒の安全を考慮し、土砂災害（特別）警戒区域等を避けること。

小諸東中学校区の東小学校、野岸小学校、美南ガ丘小学校については、芦原中学校区の小学校の再編統合後に検討する。

通学方法は徒歩を基本としながらも通学区とあわせて、引き続き学校再編における検討課題とする。

【教育の取り組み】

児童生徒一人一人の「認知的能力」「非認知的能力」「言語能力」について段階をふんで計画的、継続的に育むことで「児童生徒『一人一人』の学びを支える教育の推進」を図る。また、それを小諸市全体で進めるために、現在、実施している小中連携教育を一層強化し、幼保小中の連携、地域との連携を深めながら、市内全ての小中学校で9年間の一貫したカリキュラムづくり、カリキュラム・マネジメントの実践等、小中一貫教育を目指す。そして、「学ぶ基礎を培い、学びや体験を通して自己理解を深め、将来への希望や志の持てる子ども」を育成する。再編統合には、時間を要するが、再編統合を待つことなく、小中一貫教育を進めていく。

【校地の選定、施設維持に関する考え方】

教育委員会では、児童生徒にとって望ましい教育のあり方を中心に据えて検討を進めてきたが、統合小学校の校地選定、中長期的な校舎の維持管理計画については、財政的な裏付けが必須となる。市全体の公共施設の延べ床面積のうち学校施設は4割強、教育委員会所管施設は6割強を占める。そのため、今後の進め方については、市の「公共施設マネジメント」の取り組みにおける「基本的な考え方」に沿って、「公共施設全体の中の一つ」として児童生徒はもちろんのこと、小諸市にとっても最適と考えられる方法で検討を進めていく。

R4年 9月
～
R5年 3月
【全8回】

●小諸市学校再編計画検討懇話会

- ・令和4年6月に策定した小諸市学校再編基本構想を基に小諸市学校再編計画を策定するにあたり、市民の意見を求めるために、懇話会を開催した。勉強会、現地視察、先進地視察などを含めて計8回の懇話会を開催した。
- ・統合小学校を水明小学校敷地に建設する小中近接案、芦原中学校敷地に建設する小中併設案の2案で比較検討。
- ・市民向けの中間説明会を実施。
- ・小諸市の進める教育を実践する上では、芦原中学校敷地に統合小学校を建設する小中併設案の方が良いという意見が多かった。ただし、検討事項を整理検討することが必要。また、今後の教育を考え、学園制、義務教育学校、4-3-2制、5-4制などについても検討を進める必要があるとの意見も出た。

※学園制：既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、9年間の教育目標を設定し9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。関係校を一体的にマネジメントする組織や学校間の総合調整を担う校長を定める。

※義務教育学校：一人の校長の下で一つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態。

R5年 5月

現地見学会・説明会

R5年 5月

『小諸市学校再編計画（案）』小諸市教育委員会

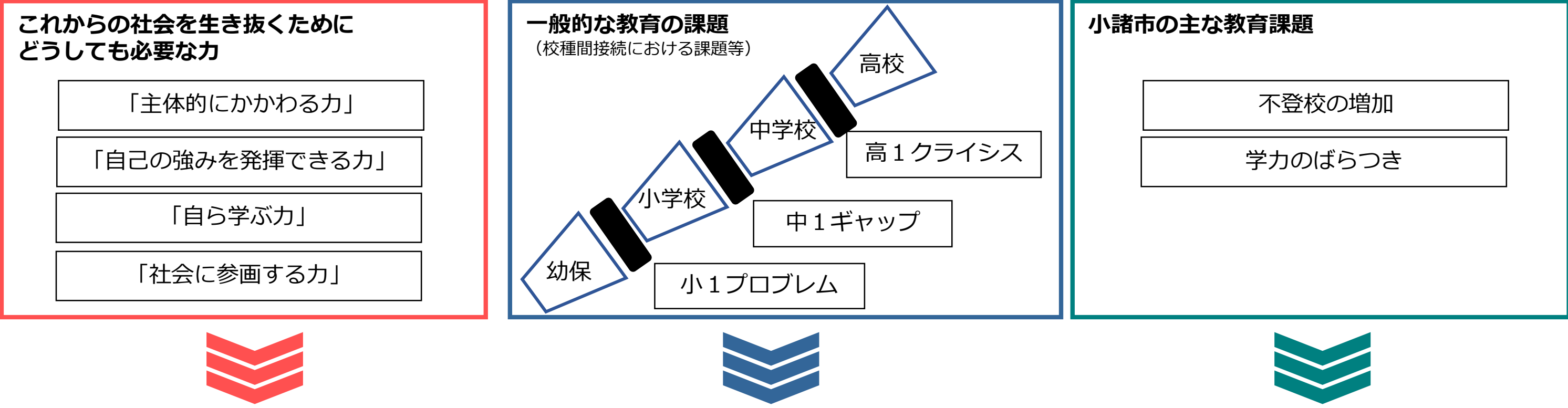
R5年 6月

市民説明会・パブリックコメント（6月～7月）

R5年 7月

『小諸市学校再編計画』小諸市教育委員会

3. 小諸市の目指す教育「心豊かで自立できる人が育つまち」への歩みとこれから（課題と子どもに育てたい資質・能力）



「必要な力をつけるため、課題解決のために小諸の教育をどうすべきか」。平成28年から検討を重ね次のとおりとする。（詳細は前ページ参照）

子どもに育てたい資質・能力（認知的能力、非認知的能力、言語能力）

- 1 「自分の考えを言葉に表せる力」を育成し、「取り組んでみようとする意欲」「自分もやればできるという自信」を育てる
- 2 仲間と協調し、共に取り組む中で「人間関係形成力」「コミュニケーション力」を育てる
- 3 大人や違う年代の人との出会い、学びを通して、広く社会に目を向けて「夢」「希望」「志」を育てる

3. 小諸市の目指す教育「心豊かで自立できる人が育つまち」への歩みとこれから（3つのキーワードと具体策）

<キーワード>

つなぐ
(学びをつなぐ)

かわる
(学びの質を高める)

出会う
(学びを支える)

<具体策>

○一人一人を大切に育てるためには**多くの人の力と時間が必要となるが**、一人の能力、時間、対応には限界がある。子どもには**チームできめ細かく対応**することが必要。

- 一人の先生が1時間の授業の中でだけ育てるのではなく、学校全体、学年全体で子どもを育てる「学年担任制」、教師の個々の強みと条件を活かした「教科担任制」、中学とのつなぎをスムーズにしながら学力の向上も期待できる「小中学校の乗り入れ授業」を実施する。
- 子どもにとってだけでなく、孤独になりがちな教師にとっても「学ぶ場」「相談できる場」「意見を聞ける場」を提供する。

○子どもの育ちは連続の中にあり、子どもたちの資質・能力の育ちは、成長の段階を追ってなされるので**(幼保)小中の先生は、それぞれの段階での子どもの育ちを知らない**と、教育は成り立たない。

- 小中の先生が**「児童生徒がどのように育つことを目指すか」目標と指導方針を共有し、育成していくこと**を目指し、(幼保)小学校と中学校9年間を通して、連続的・系統的なカリキュラムを編成し指導する。

○一人の先生が評価するのではなく、育ちの確認、共有、共に認め合う教師集団を形成する。

- 評価して終わりではなく「どの子に何が育ったか育ちの確認」「子どもたちにも共通の価値観を持たせ」「目標を設定する」カリキュラムマネジメントの実践。
- 子どもたちの段階的、継続的な育ちを支えることで、小1プロブレム、中一ギャップの解消が期待できるだけでなく、子どもの主体性が育つことで、教師のやりがいにもつながる。

○様々な交流の中で子どもたちの資質・能力を育てる。

- 校内での異学年交流。子ども同士の交流で子どもたち自身が、すぐ近い未来に希望を持つ。2年生が1年生の先生になって「来年は私たちが教える」という小さな志を持つ。
- 地域の異年齢、異世代交流（地域の人、モノ、コトと関わる）の中で、先生とは異なる視点で子どもを見守る人の存在が子どもを育てる。学校が色々な人と出会える場所となる。
- ふるさと学習（小諸を知り、愛し、誇りに思い、行動する）を通じて、文化施設や歴史的建造物をめぐり小諸の歴史文化を学ぶ。地元企業見学などを通して小諸で働く人々と出会う。
- 学校種間の垣根を超えた交流、幼保小交流、小小交流、小中交流、幼保中交流が考えられる。
- 多様性のある学びの場を確保して、不登校支援、キャリア教育の充実を図る。

これってつまり、
小中一貫教育！

(幼保)小学校と中学校9年間を通して連続的・系統的に指導する**「小中一貫教育制度」**は、小諸市にとって今こそ必要な教育システム

4. 目指す教育を実現するための望ましい教育環境の確保

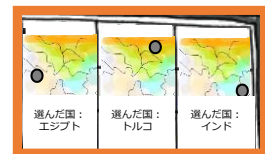
学校教育審議会の答申で示された「望ましい学習環境」では、「求められる学校の実現に向けて ～教育を支える「ひと・もの・こと」の組織化～」を目指しており、これに向けて、「一人一人の学びを支える教育を推進するために」ということで、学校と地域と家庭が一体となっていくことが提案された。学校再編は、こうした望ましい学習環境を実現するために行うものである。



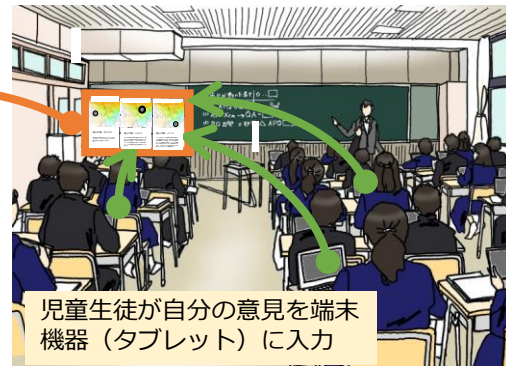
授業

●ICT活用で、一人一人が思考・判断し表現できる学習

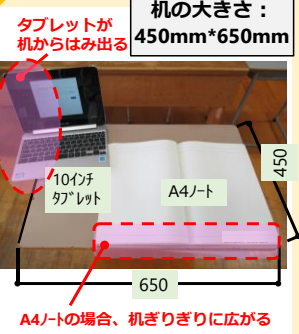
- ICTを活用した互いに検討し合う学びは、一人一人の学びを支え、思考力・判断力・表現力の育成を図る。



生徒一人一人の意見がディスプレイに表示され、一人一人の考えを共有。



児童生徒が自分の意見を端末機器（タブレット）に入力



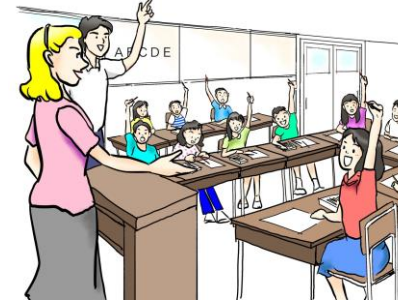
- 用意した課題を端末機器（タブレット）に送り、一人一人の児童生徒が取り組む。
- 児童生徒の学習状況等をデータ化し、理解度別自動出題等、一人一人に合った学習ができる。
- 教員も児童生徒も「今どこまでできるようになったのか」を把握できる。

●英語に親しみコミュニケーション能力向上を図る学習

- クラス担任とALTのモデル会話を見たり聞いたりしながら、会話の仕方に慣れ、子ども達みんなが挑戦してみようとする意欲を育む。

会話重視（コの字型授業）

- ALTとクラス担任による会話表現の授業。
- クラス担任とALTのモデル会話を見たり聞いたりしながら、会話の仕方に慣れ、子ども達みんなが挑戦してみようとする意欲を育む。



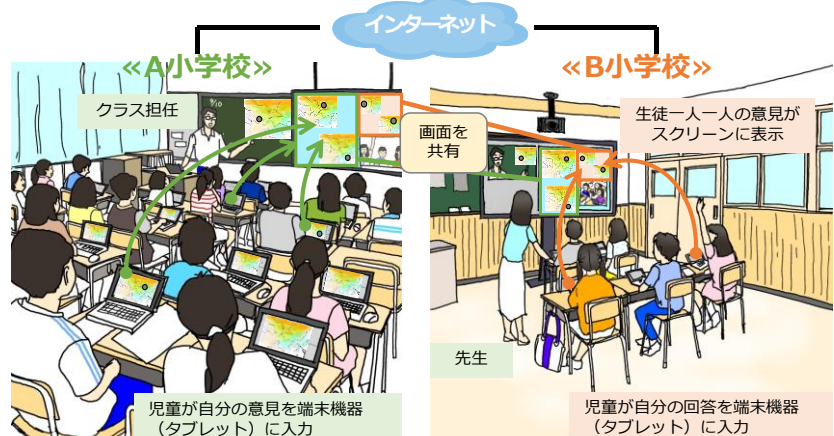
アクティビティ重視（グループ学習）

- ALTとクラス担任がしゃがんで、子どもと目線を合わせた授業。
- 教室内に活動スペースを確保し、体を動かして少人数で行う。身体を動かしてゲーム感覚で授業に参加することで、外国語に慣れ親しむ。



●遠隔授業の実施

- 離れた2つの学校で同時双方向コミュニケーションを取りながら学習を進める。

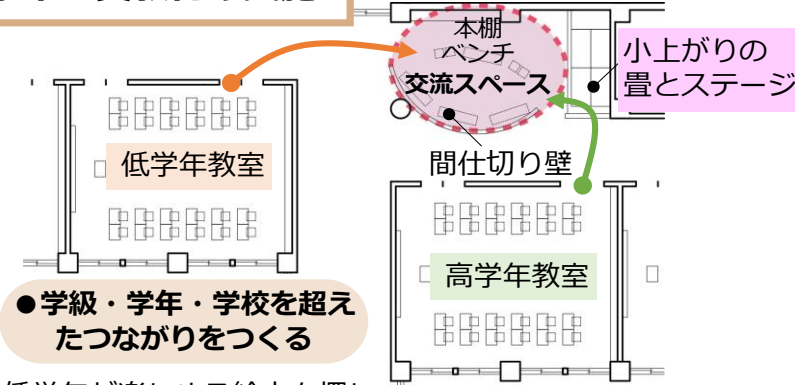


児童+教員がICT機器を活用して場所の離れた学校と遠隔でつながる。

児童に対して、ICT機器の操作や学習等をサポートする補助員が付き、授業を進める。

- 離れた2つの学校の同じ学年の児童生徒が、互いの取り組みの情報交換をしたり意見交換をしたりしながら学習を進めることが可能となる。
- 補助員を設け、児童たちの学習のサポートを実施する。
- 教員は、ICT機器で一人一人の意見を同時に確認し、授業への個人の理解度を把握できる。

小中一貫教育の実施



●学級・学年・学校を超えたつながりをつくる

- 低学年が楽しめる絵本を探し、仲間と相談して活動に取り組む。
- 学年を超えての関わり活動が、高学年の子どもに自信、意欲、協調する力、粘り強さ等「非認知能力」の向上や心の成長につながる。
- オンラインの小中学校の交流スペースとしても活用できる。



交流スペースで高学年の子どもが低学年の子どもに読み聞かせを行う。

●中学校専科教員の授業を小学生が受講

小学生が、中学校教員から専科の授業を受け、中学校の授業をイメージしやすくする。



小学生が中学校を訪問して、専科の先生から授業を受ける。

●小中連携活動の実施

- 中学校での1日体験授業
- 共に学ぶことで交流を深める。
- 中学生が小学生に勉強を教える等



中学生がお兄さん先生、お姉さん先生となり小学生に勉強を教える。

●小中教職員の交流（カリキュラムマネジメント）

9年間を通して系統的に指導するため一貫性のあるカリキュラム・マネジメントを話し合う。



小・中学校の教員同士で情報を交換できる。

不登校対応・特別支援教育

●不登校対応の充実

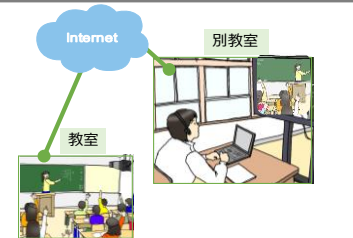
- 芦原中学校区に設置した教育支援センターで対応。
- センターでの活動としては、教科の学習、野外学習・調理活動・ものづくりや読書等の自由時間がある。
- 個室空間での不登校対応。
- オンラインでの不登校対応



教育支援センターでの活動

●特別支援教育の充実

- 通常学級で教師と指導員がチームをつくり、一人一人の学びを支える。
- ユニバーサルデザインを大切にしたい教室環境。
- 地域の方々の協力を得て、豊かな学びをする。
- 音声再生や文字の拡大等、一人一人が学びやすい学習方法で学べる。



オンラインで小学校と中学校とも連携がしやすくなり、連続的な支援ができる

令和3年3月に策定した小諸市学校施設長寿命化計画を基に実施していく。

「小諸市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）」より

第4章 学校施設長寿命化計画（案）

1 整備方式の考え方

(1) 整備方式の決定

ア 長寿命化の考え方

長寿命化するということは、構造躯体^{*2}の健全性を維持し、物理的な耐用年数近くまで建物を使用することです。建物は躯体が健全であれば、躯体以外の部分を修繕・改修・交換することで長く使用できます。建物の望ましい目標使用年数は構造種別により異なり、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、及び重量鉄骨造について高品質の場合は80年から120年となります。しかし、構造躯体の物理的な耐用年数は、施工時の状況やその後の使用状況及び立地環境によって異なります。

図表 建築物の望ましい目標使用年数

鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋 コンクリート造		鉄骨造		軽量鉄骨	ブロック造 れんが造	木造
		高品質 の場合	普通の品質 の場合			
80～120年	50～80年	80～120年	50～80年	30～50年	50～80年	50～80年

出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

長寿命化方針として、本市の学校施設の目標使用年数は80年とします。ただし目標使用年数の時点で躯体の健全性が確認できればさらに長く使うことも検討します。

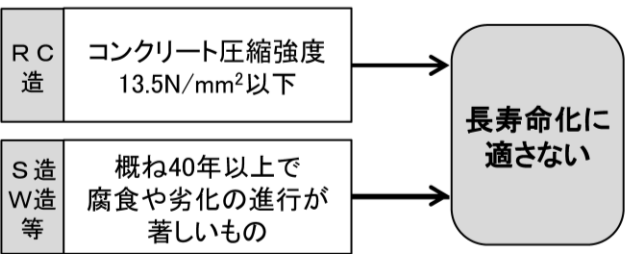
(ア) 長寿命化の技術的な判断基準

長寿命化にあたっては躯体部分が長期間の使用に耐えうることが必要となりますが、使用しているコンクリートが著しく低強度（13.5N/mm²以下）であれば、変質、変状、施工時の信頼性の全てに影響があるため、基本的に長寿命化に適しません。

なお、コンクリートの中性化^{*3}が進行しても直ちに鉄筋の発錆につながるものではなく、コンクリートに施される仕上げにより中性化の進行が緩やかになることから、適切な補修・改修を施すことで長寿命化できます。

また、鉄骨造の場合は、建物の経年に伴う構造部材の劣化と非構造部材等の劣化が問題となり、専門家による外観調査によって評価する必要があります。

図表 長寿命化の判断基準



(イ) 長寿命化判断のために今後必要な調査

耐震診断時に行った調査は、圧縮強度^{*4}等の限られた情報による評価であり、また、中性化深さや鉄筋の腐食度は経年により進行します。そのため、「長寿命化に適する」評価と判定された建物でも10年以上前の古いデータであれば、工事実施時に耐力度調査^{*5}に準じた構造躯体の詳細な調査を行う必要があります。

詳細な調査では、鉄筋コンクリート造については、コア抜き、はつり調査を実施し、鉄筋の腐食度、圧縮強度、中性化深さの測定を行います。

また、鉄骨造や木造の建物については、材料試験を行わず、現地目視調査にて判断します。この調査では不同沈下、建物の傾き、外壁のひび割れ、構造部材のサビ・腐朽・座屈・破断等の有無について目視にて確認します。

図表 今後必要となる構造躯体の詳細な調査

調査	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨造	木造
	現地目視調査及び材料試験	現地目視調査	現地目視調査
評価項目 (例示)	➢ コンクリート圧縮強度 ➢ 中性化深さ ➢ 鉄筋かぶり厚さ ➢ 鉄筋腐食状況 ➢ 屋上・外壁の漏水状況	➢ 筋かいのたわみ ➢ 鉄骨腐食状況 ➢ 非構造部材の取付部・ 設備・二次部材安全性 ➢ 屋根・外壁の漏水状況	➢ 土台・柱・梁の腐朽 ➢ 柱・梁の傾斜 ➢ 床のたわみ、床鳴り ➢ 屋根・外壁の漏水状況



躯体の詳細な調査に加えて経済性や教育機能上
などの観点から総合的に判断する

<用語解説>

*2 構造躯体…基礎、柱、梁、壁面、床など建物の構造を支える骨組みのこと。躯体、構造体、スケルトンとも言う。一般に、構造躯体はその材料により、鉄筋コンクリート造（RC造）、鉄骨造（S造）、木造（W造）などに区別される。

*3 コンクリートの中性化…経年によりコンクリート内部のアルカリ成分が失われること。中性化の進む深さは時間の平方根に比例する。コンクリート中性化が進行すると内部の鉄筋が錆びやすい状況になる。

*4 圧縮強度…コンクリートの品質を図るうえで重要な指標であり、強度が高いほど耐久性も上がる。例えば、JASS5では、大規模な補修が不要となる期間とそれに応じたコンクリートの設計基準強度を4段階に分けて定め、期間は30年、65年、100年、200年、それに応じた耐久設計基準強度はそれぞれ18、24、30、36N/mm²である。（「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」日本建築学会、2009年改定）

*5 耐力度調査…公立学校施設における建物の構造耐力、経年による耐力・機能の低下、立地条件による影響の3点の項目を総合的に調査し、建物の老朽化を総合的に評価するもの。調査の結果、所要の耐力度点数に達しないものについては、老朽化した公立学校施設を建替える事業の対象となる。

イ 改修サイクル

改築の場合は、築20・40年で中規模改修を行い、築60年で建て替えます。
長寿命化の場合は、築20・60年で中規模改修、築40年で長寿命化改修を行い、80年で建て替えます。

ウ 学校単位の整備方式(案)

棟単位の整備方式では、諸室配置の見直しなどの改善を行うにも限界があり、大きな効果は生み出せません。このため再編や再配置、規模適正化などの要素も入れ、学校単位の優先順位及び改善プランを定め、大きな効果を生み出せるようにします。
ただし、直近に改修や建替えを行わない学校であっても、施設の運営や躯体の健全性に影響を及ぼす劣化や不具合が生じた場合は、先行的に部分改修・修繕(事後保全)を行うものとし

エ 工期等

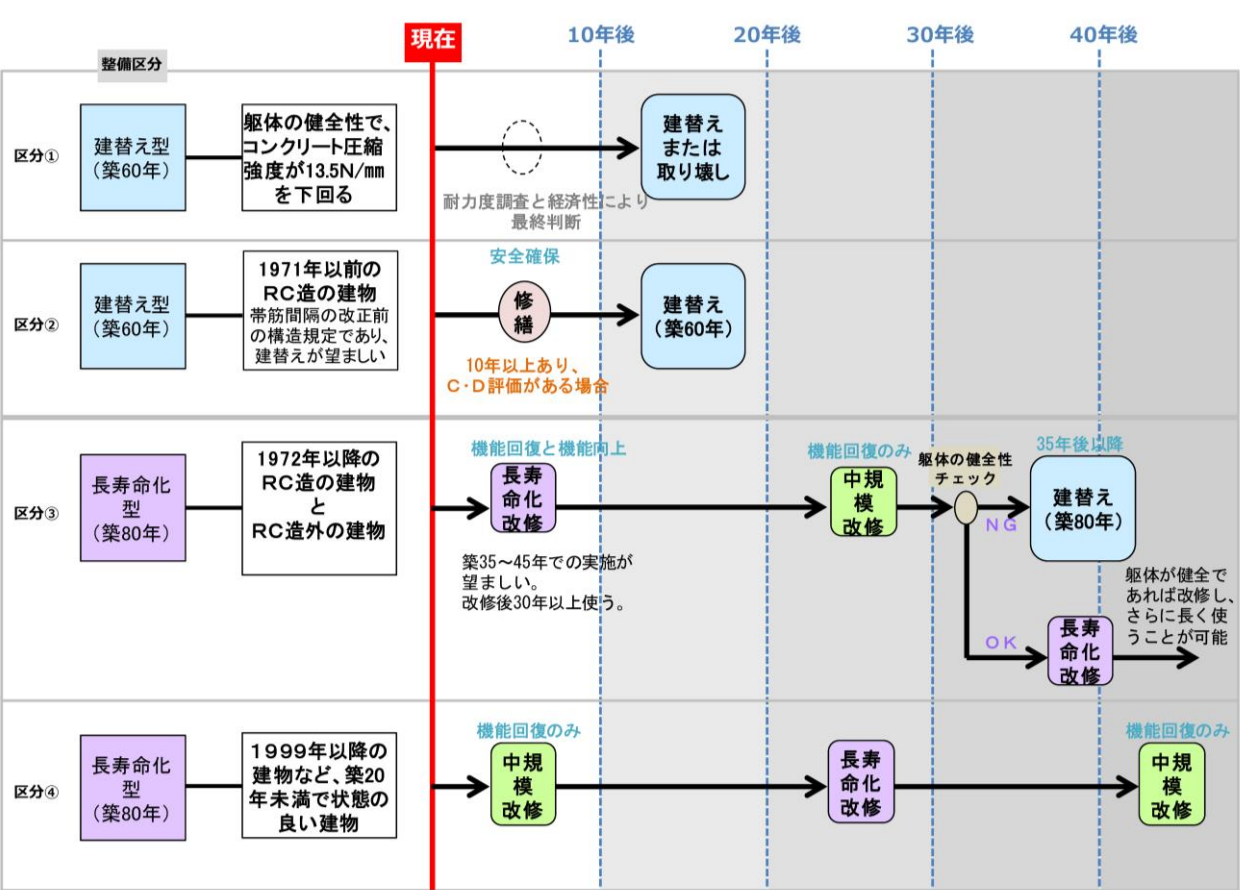
これまでの大規模改造は、学習環境への影響を考慮し、主に夏休み期間を活用して行ってきました。長寿命化改修へ切り替えた場合には工事内容が増え、工期が長くなることが予想されるうえ、昨今では夏休み期間自体もこれまでより短くなってきています。夏休み期間終了後も延長して改修を行う場合、仮設校舎の設置などの費用が必要となり、また児童生徒の学習にも不便を生じさせます。このため、今後は改修する部位を分割し、工事期間を複数年に分け、夏休み期間を中心に改修工事を行うこととします。

(ア) 整備方式の設定（案）

- ・ 建替えと長寿命化改修の振り分け方
効率的に整備を行うためには全棟一律ではなく、建物の実態に応じた整備方法を使い分ける必要があります。そこで、各学校の建物の実態を基に以下の区分に分類しました。

- 区分①（建替え型）：1971年以前のRC造の建物
(1971年以前：建築基準法改正前の建物)
- 区分②（長寿命化型）：全て1972年以降の建物
- 区分③（長寿命化型）：直近10年間に中規模改修の時期を迎えるが、現地調査の結果、建物外部が全てA評価の建物

図表 建物区分ごとの整備スケジュール



(イ) 優先順位の考え方（案）

校舎や屋内運動場における長寿命化改修の優先順位の考え方は下記のとおりとします。
優先順位は、校舎・屋内運動場のそれぞれについて、学校単位で判断します。
改修の優先順位付けについては、経年劣化の観点及びこれまでの改修状況を踏まえる必要があることから、学校ごとに「建築後、もしくは改修後の経過年数」と「主要な部位の劣化状況評価」により点数化し、その合計による総合評価点（施設の総合評価点）に基づき、状態の悪い建物や経過年数の長い建物が多い学校を優先に、整備順位を設定します。
ただし建物や設備の劣化は日々進行していくものであり、さらに仕様や建物の置かれている環境によって進行状況も異なってくるため、整備順位については、継続的に劣化状況を把握したうえで、適宜、見直しを行っていきます。

(I) 改修の整備内容

長寿命化改修：建物を長く安全に使うため、躯体の長寿命化やライフラインの更新などにより建築物の耐久性を高めるとともに、バリアフリーや新たな学習環境の整備などの社会的要請に応じた改修

- 躯体の補修、屋上・外壁等の外部及び内部仕上り等の全面改修
- 耐久性の高い部材・仕様への更新
- 配管、配線などのライフラインや設備の更新
- 照明器具、設備機器の更新
- スロープ、昇降機設置や多目的トイレの整備等のバリアフリー化
- 多様な学習形態に応じた教室の整備

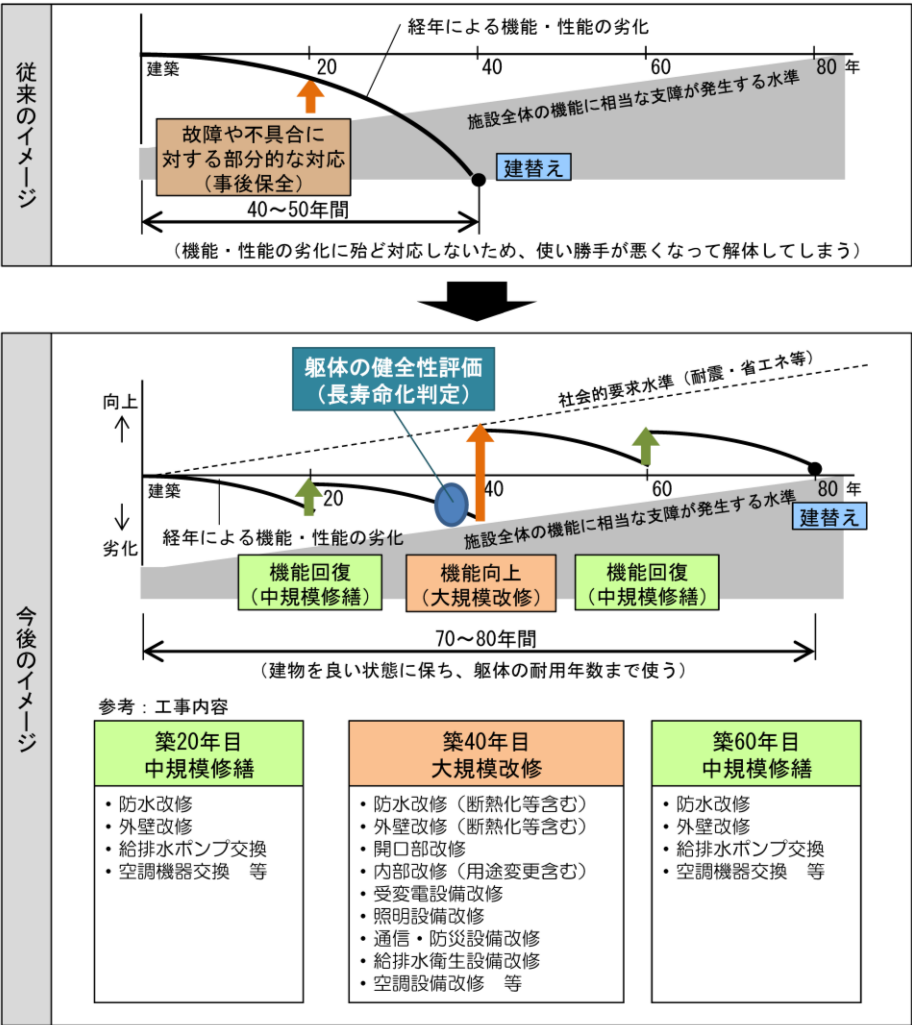
中規模改修：長寿命化改修の20年前、20年後を目途に、主に外部を良好な状態に保ったり更新時期を迎える設備などを行う改修

- 屋上・外壁等の外部の全面改修（仕上りの補修）
- 主要な設備機器の更新

(1) 長寿命化改修／建替えの併用による効率的な施設整備

市の学校施設は老朽化が進む建物もあり、今後、改修や建替えの整備時期を迎えます。本計画では限られた財政状況で、効率的に施設整備を実施するため、長寿命化改修工事を実施し、建物の目標使用年数をこれまでの60年から80年とします。ただし、昭和46（1971）年以前に建てられた古い耐震基準の建物などは、残り使用年数等も考慮し長寿命化せず、建替えで対応します。

築年数や躯体の健全性、躯体以外の劣化状況及び大規模改修の実施状況から、長寿命化改修だけでなく建替えを含めながら整備方式を設定し、優先順位をつけて効率的・効果的に実施します。また、優先順位の設定に当たっては、今後の児童生徒数の動向や学校再編の方向性を含めて決定します。



図表 長寿命化型のイメージ

第2章 学校を取り巻く現状

1. 施設の概要

本市には、公立の小学校6校と中学校2校がある。耐震等により一部建て替えをした施設もあるが、小学校はいずれも昭和40年、50年代に建築された建物で、建築後40年～50年を超えている状況である。

中学校は平成に入り2校とも建て替えたため、比較的新しい建物となっている。また、小諸東中学校は令和3年度から大規模改修工事に着手している。

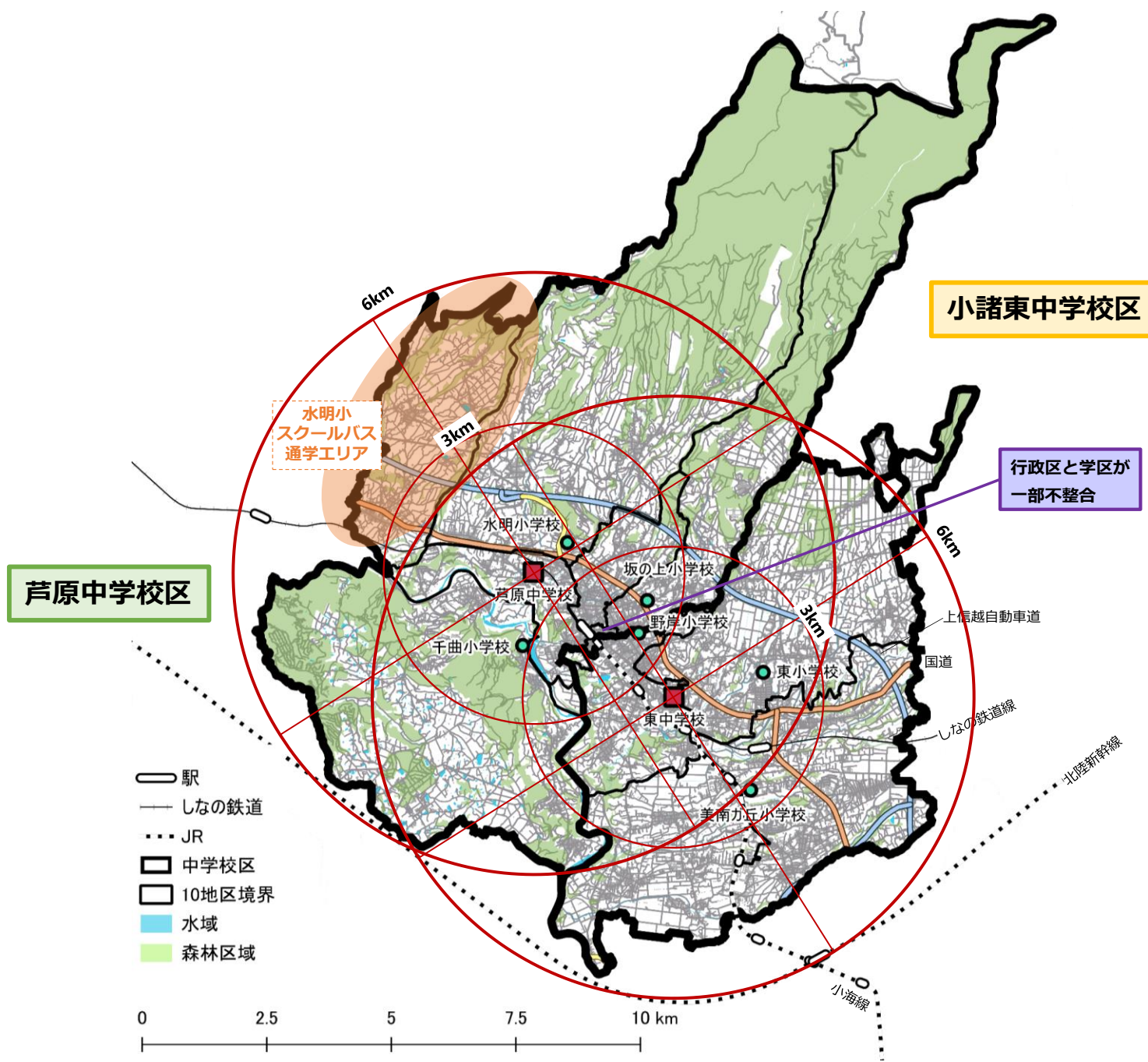
(2022年5月1日)

名称			住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築 年度	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
							通常学級 在籍者数	特別 支援	通常学級	特別 支援
小学校	1	東小学校	小諸市大字柏木526番地	11,977	5,110	昭和43	419	14	15	3
	2	坂の上小学校	小諸市紺屋町3丁目2番1号	9,357	6,387	昭和45	280	8	12	2
	3	野岸小学校	小諸市与良町二丁目6番1号	11,395	6,027	昭和53	264	10	12	2
	4	水明小学校	小諸市大字諸101番地の1	13,980	5,762	昭和49	286	14	11	3
	5	千曲小学校	小諸市大字山浦2955番地	8,624	4,966	昭和56	85	3	6	1
	6	美南ガ丘小学校	小諸市大字御影新田1985番地	10,630	8,985	昭和41	537	40	19	6
小学校 計				65,963	37,237		1,871	89	75	17
中学校	1	小諸東中学校	小諸市加増3丁目5番1号	15,113	12,637	平成2	640	28	19	4
	2	芦原中学校	小諸市新町2丁目6番1号	17,515	12,249	平成10	361	20	12	4
中学校 計				32,628	24,886		1,001	48	31	8
学校施設 合計				98,591	62,123		2,872	137	106	25

※「建築年度」は、校舎棟（又は特別教室棟など主要棟）で最も古い建築年度を記載。

2. 施設配置

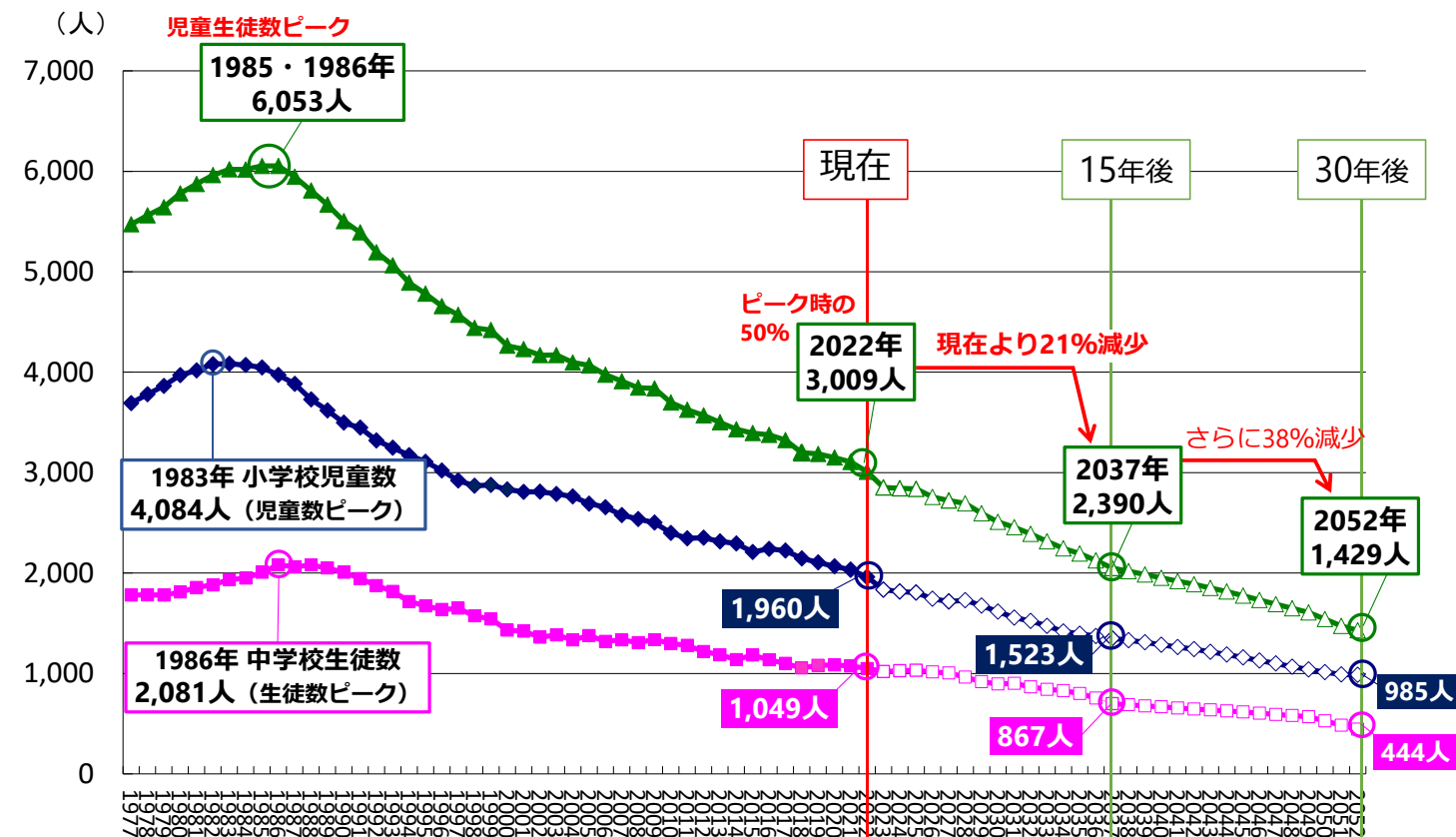
2つの中学校区にそれぞれ3校の小学校が位置する形になっているが、一部の行政区は、複数の通学区がまたがる状況である。また、水明小学校の一部通学区でスクールバスを運行している。



3. 児童生徒数の推移と将来予測

(1) 市全体

児童生徒数の変化について、市全体を見ると、昭和60年度、昭和61年度をピークに減少をしており、令和4年度ではピーク時の約半分の児童生徒数となっている。また、将来的にも減少することが予測されている。



(出典) 2022年まで：実数（特別支援学級含む）
2023年～：将来推計

※将来推計
国土交通省国土技術政策総合研究所「小地域（町丁・字）を単位とした将来人口・世帯予測ツール」を基に、町丁別・5歳階級別の人口推計を行い、町丁と学区の関係を整理して児童生徒数を推計した。

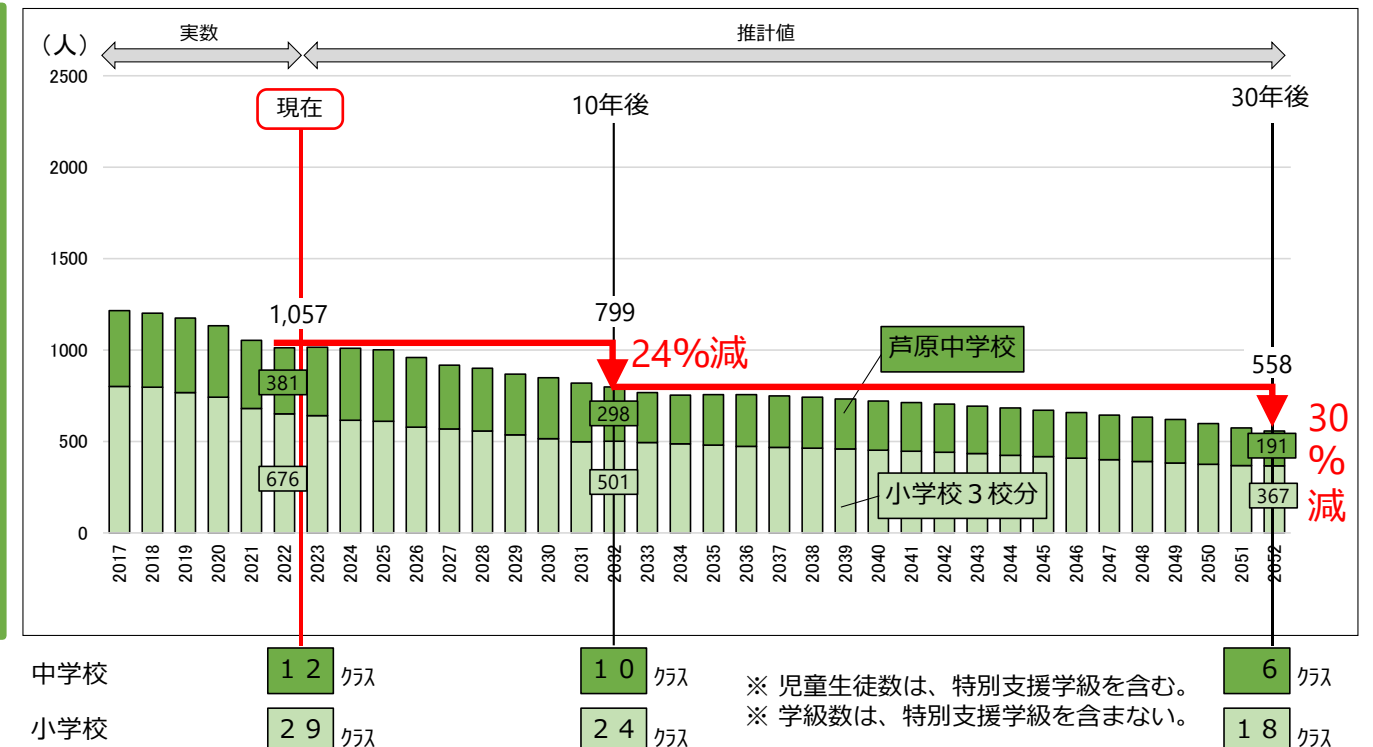
(2) 中学校区別

児童生徒数について、中学校区別にみた場合も、将来的な減少予測は変わらないが、芦原中学校区は10年後には10クラス編成となる。

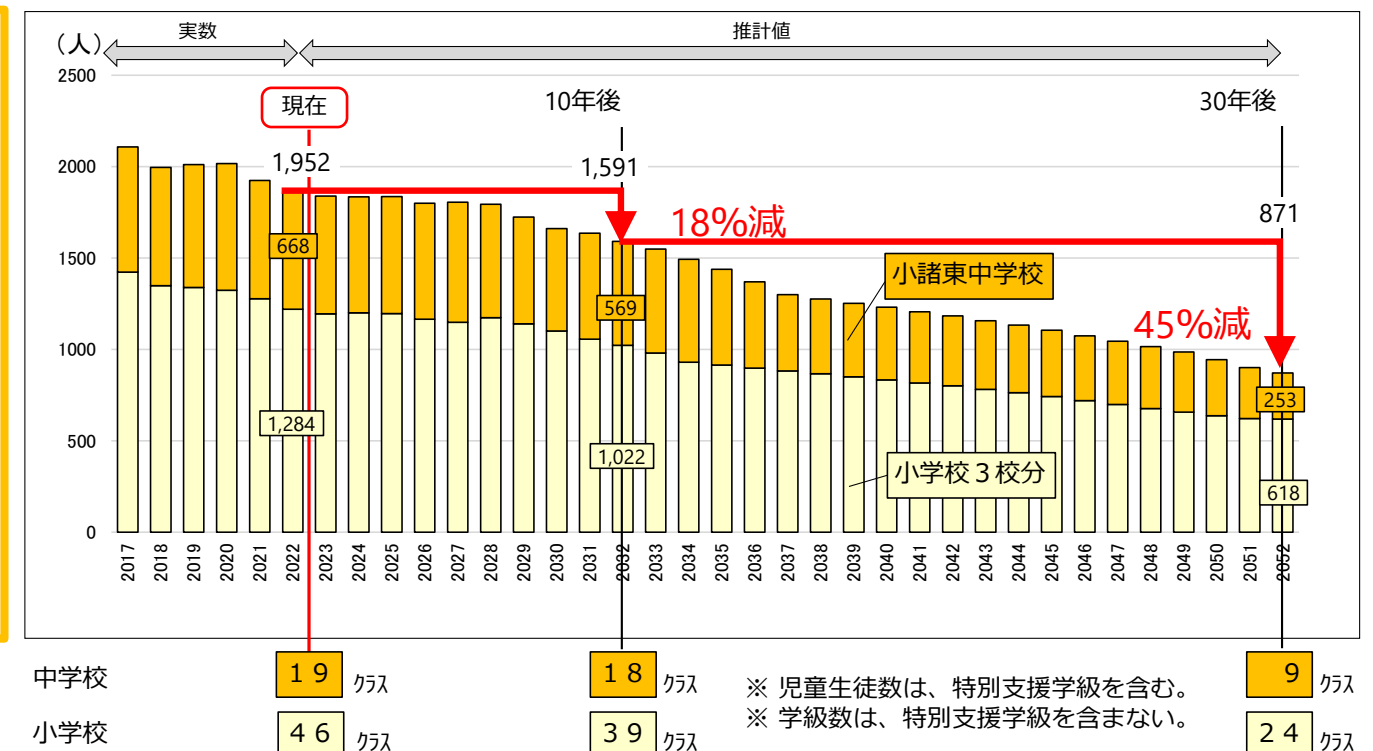
また、小諸東中学校区も2032年以降の減少率が大きくなることが予測されている。

こうしたことから、学校の適正規模、適正配置に向けた取り組みが必要な状況となっている。

芦原中学校区



小諸東中学校区



小諸東中学校区も10年後以降は、児童生徒数の減少が加速する予測

4. 通学路の状況

(1) 芦原中学校区

芦原中学校区と各小学校区の状況について、千曲小学校では人数は少ないが、最長 6 kmの通学距離になるケースがある。水明小学校では、一部地域でスクールバスによる通学を実施している。

芦原中学校区児童生徒数		
2022年 (R4)	10年後	2032年 (R14)
1,057人	→	799人

芦原中学校

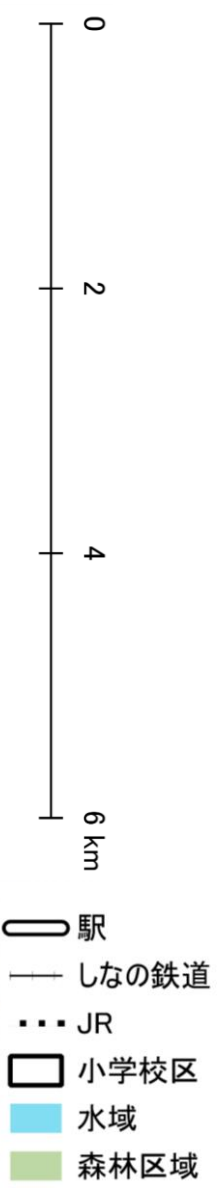
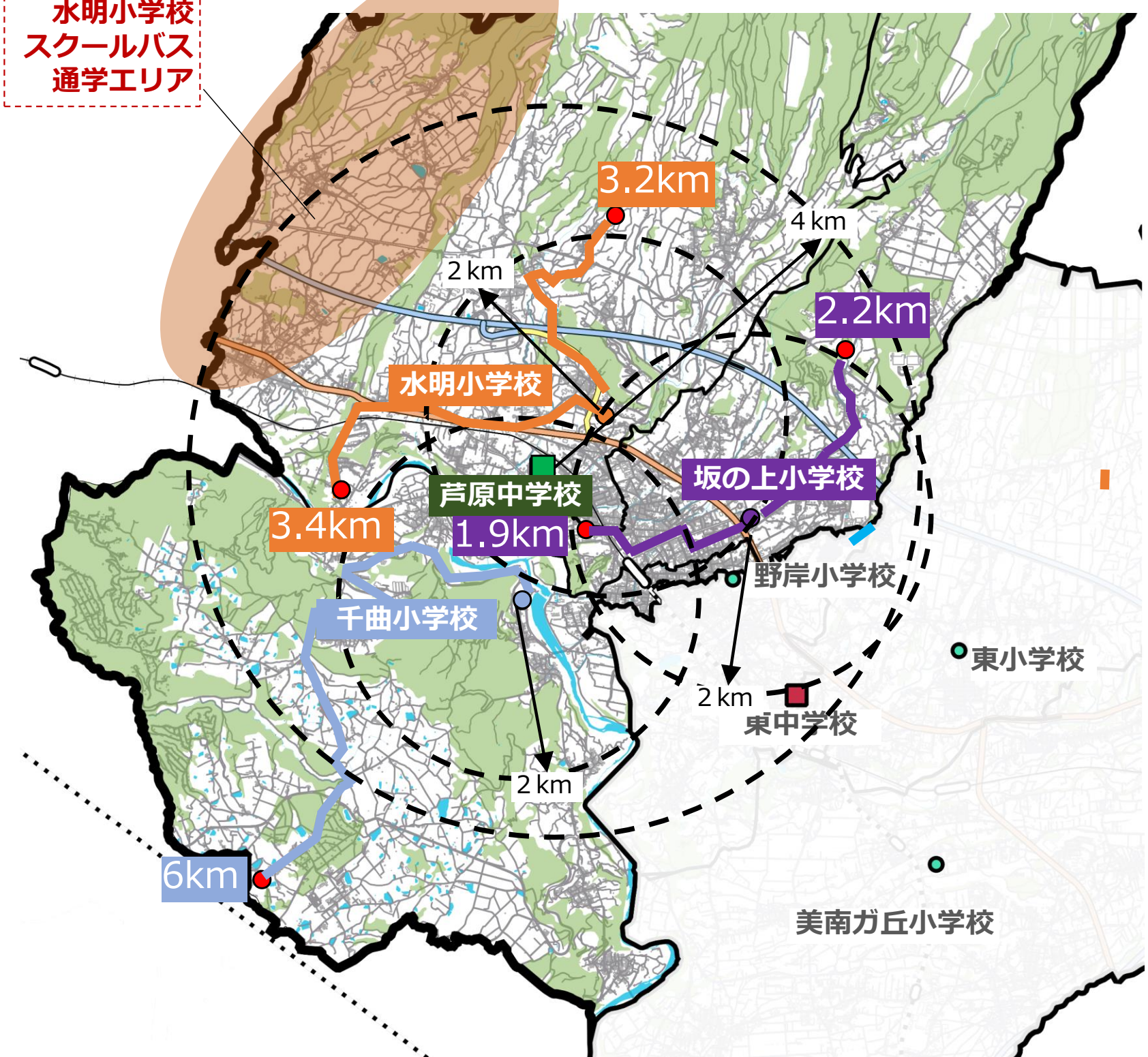
坂の上小学校

水明小学校

千曲小学校

→西小諸地区の児童は、スクールバス通学

水明小学校
スクールバス
通学エリア



課題等

- 【学校間の距離】
- 水明小学校と坂の上小学校は直線距離で2km以内に収まっているが、千曲小学校は他の2つの小学校とは2km以上離れている。
 - 千曲小学校と芦原中学校区内の他の学校の間には千曲川としなの鉄道線が通っているためどちらも横断できる場所が限られている。水明小学校・坂の上小学校と芦原中学校間においても、しなの鉄道線が通っている。
- 【通学距離】
- 水明小学校の遠距離通学の距離は、最長で約3.4km。ガードレールのない国道を通る必要があり、児童の住居周辺は歩道の整備が必要な箇所もある。また、しなの鉄道線を渡る必要がある。
 - 坂の上小学校の遠距離通学の距離は、最長で約2.2km。歩道の整備が必要な箇所もある。
 - 千曲小学校の遠距離通学の距離は、最長で約6km。住居がまばらな地区もあるため、通学時の安全確保が必要。

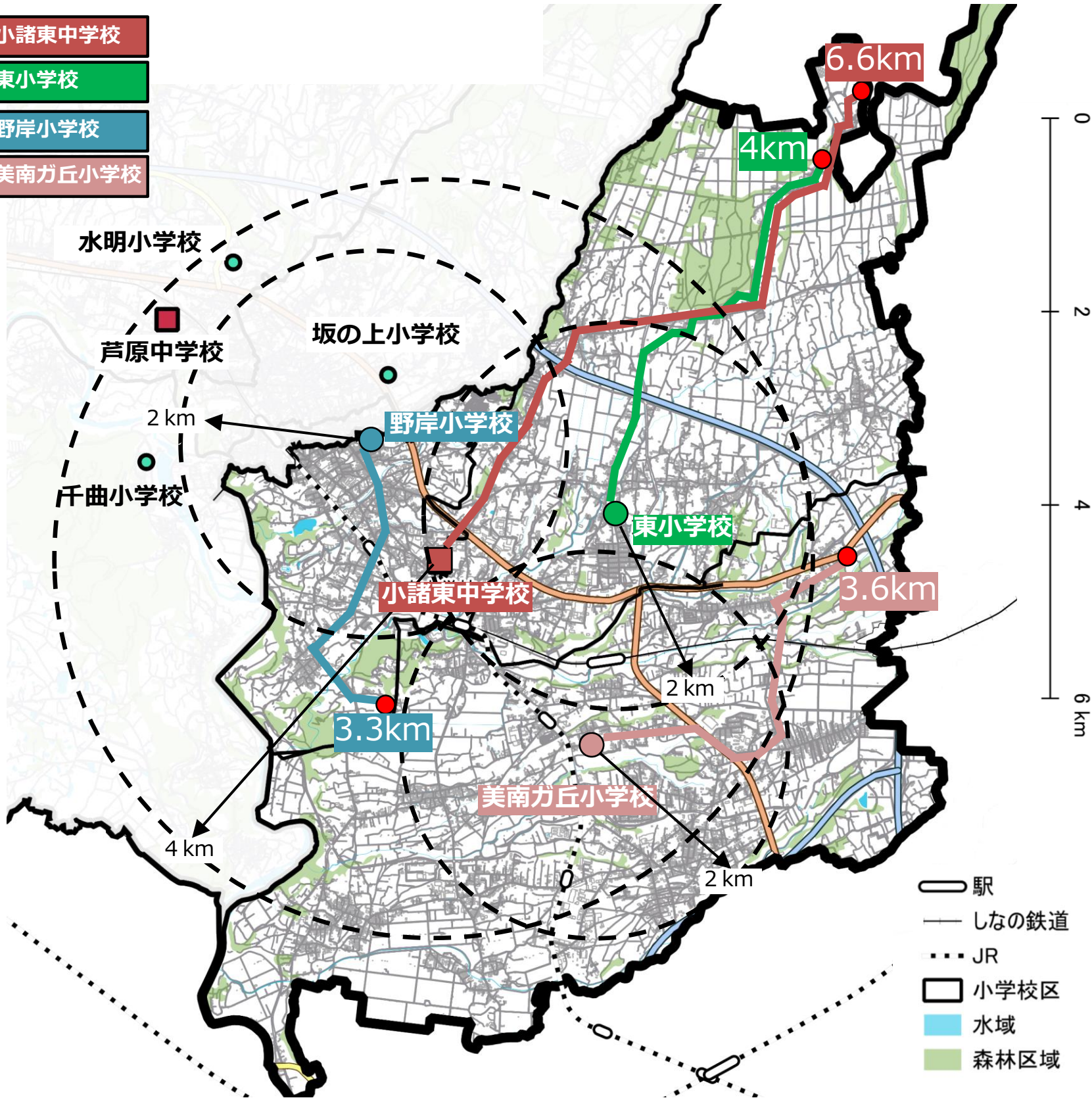
4. 通学路の状況

(2) 小諸東中学校区

小諸東中学校区と各小学校区の状況について、全て徒歩もしくは自転車による通学となっている。こちらも人数は少ないが、東小学校で最長4 km、小諸東中学校で最長6 kmの通学距離となる。

小諸東中学校区児童生徒数		
2022年 (R4)	10年後	2032年 (R14)
1,952人	→	1,591人

- 小諸東中学校
- 東小学校
- 野岸小学校
- 美南ガ丘小学校



課題等

【学校間の距離】

- 3つの小学校は直線距離でいずれも2km以上離れている。
- 小諸東中学校から野岸小学校と東小学校は直線距離で2km以内、美南ガ丘小学校は2km以上の位置にある。

【通学距離】

- 野岸小学校の遠距離通学の距離は、最長で約3.3km。しなの鉄道線によって通学路が制限されている。
- 東小学校の遠距離通学の距離は、最長で約4km。学校周辺で歩道の整備が必要な箇所がある。
- 美南ガ丘小学校の遠距離通学の距離は、最長で約3.6km。しなの鉄道線によって通学路が制限されている。

第3章

将来推計に基づく課題の整理と改善の方向性

1. 児童生徒数・学級数の変化、教職員数の変化

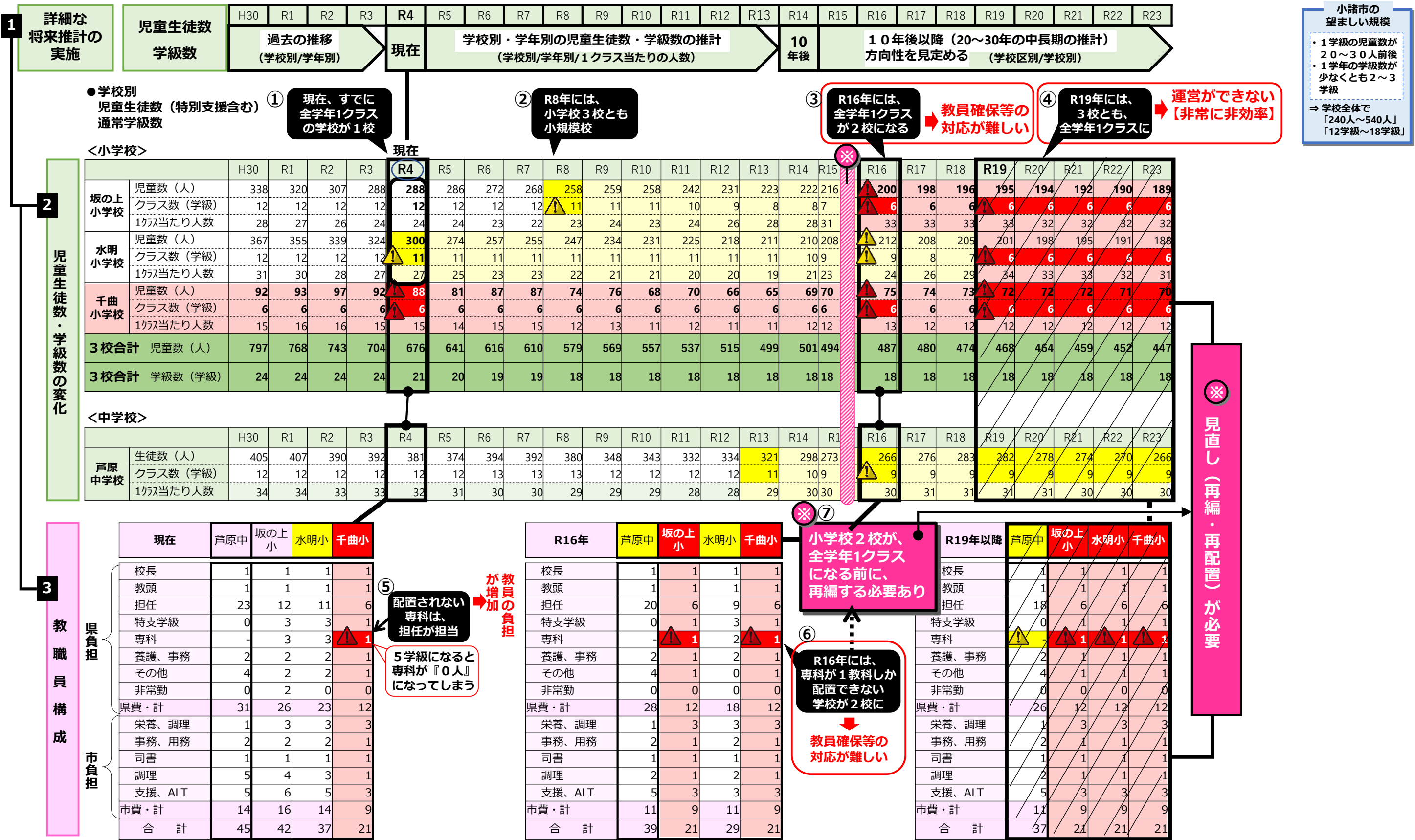
芦原中学校区

(1) 芦原中学校区

芦原中学校区は、令和4年度現在で、小学校3校、中学校1校のうち、小学校は全校で小規模校となっており、そのうち1校は全学年が1クラスとなっている。令和16年には、全学年が1クラスとなる学校が2校に増える予測であり、さらに、R19年になると、小学校は3校とも全学年が1クラスとなる予測となっており、学校運営に支障が出る恐れがある。

教職員構成の変化についてみると、現在小規模となっている千曲小学校では専科の教員の配置が少なく、その分、他の教員の負担が大きくなっている。R16年には専科の教員が1名しか配置できない学校が2校に増えてしまい、学習環境の悪化、教員の負担が増えることが懸念される。

このように、遅くとも小学校2校が全学年1クラスになってしまう前までには、対策を打つ必要がある。そのためにも、芦原中学校区は再編・再配置が急がれる状況にある。

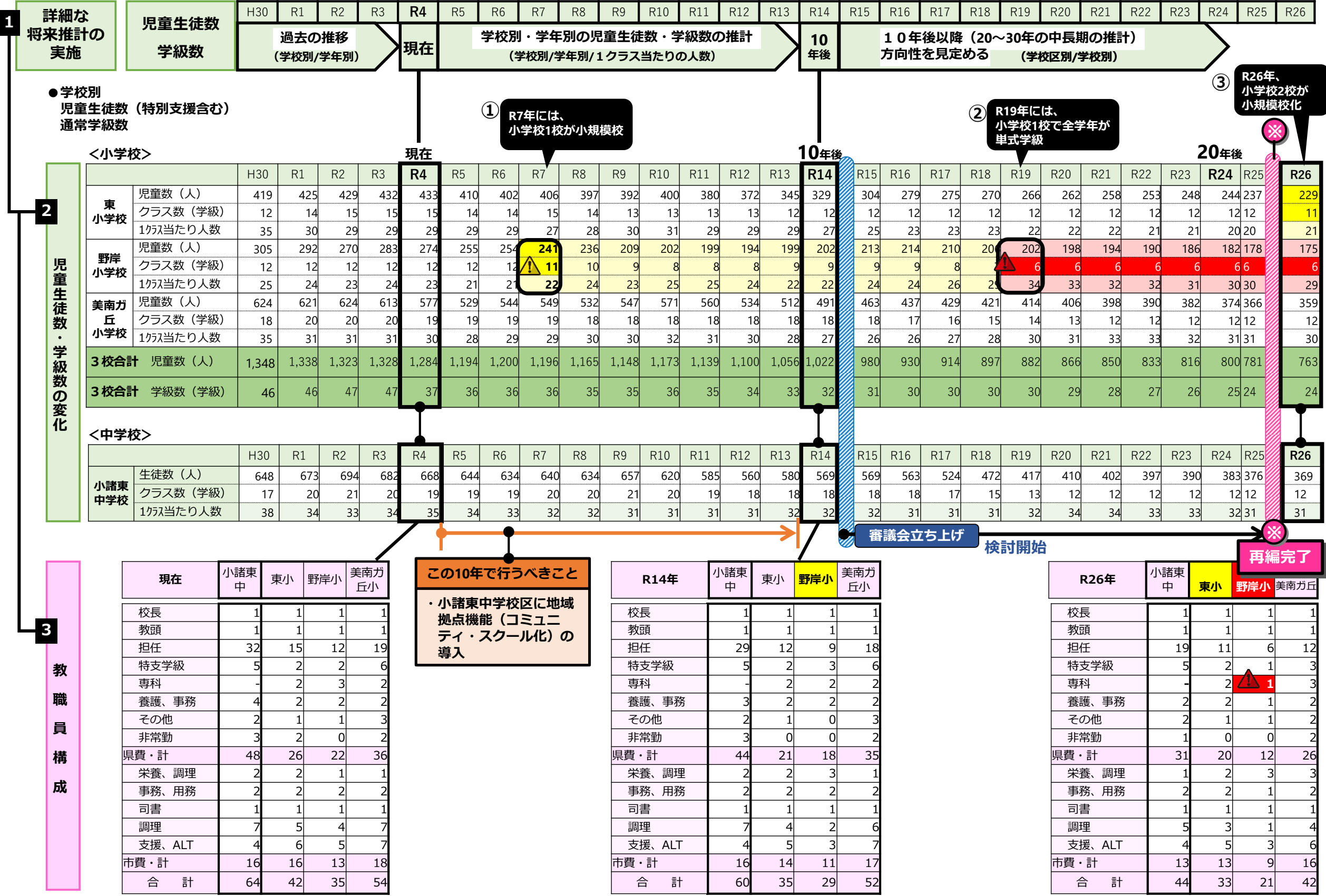


1. 児童生徒数・学級数の変化、教職員の变化

小諸東中学校区

(2) 小諸東中学校区

小諸東中学校区は、令和4年度現在では小学校3校、中学校1校のいずれも小規模校となっている学校はないが、令和8年には、小学校1校が小規模校化する予測となっている。この学校は令和19年には全学年が1クラスになる予測であり、さらに令和26年になると小規模校が1校増えて2校になる可能性がある。
このように、小諸東中学校区では、芦原中学校区から約10年ほど遅れて、芦原中学校区と同様の状況となることが見込まれる。



※ 教職員構成は、国の配置標準例および長野県の配当基準表をもとに仮にモデルとして整理したもので、配置実態とは必ずしも一致していません。

2. 現状を今後も維持していく場合の課題と再編までに今後行ふべき対応

現在、芦原中学校区では坂の上小学校が12クラス、水明小学校は11クラス、千曲小学校は6クラス、芦原中学校は12クラスとなっている。
現在、小規模校の千曲小学校で起きている事象としては、「クラス替えができない」「1クラス人数が20人未満」「専科の先生が少ない」「全体の教員数が少ない」などがある。これに対して、どのような課題があるのかを次ページ上段で4つの観点で整理した。令和16年には、千曲小学校以外の学校でもこれらの問題が生じることが考えられるため、問題が生じる前に早急な再編が必要である。

芦原中学校区

<小学校>		現在																							10年後										20年後									
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23																			
坂の上 小学校	児童数（人）	338	320	307	288	288	286	272	268	258	259	258	242	231	223	222	216	200	198	196	195	194	192	190	189																			
	クラス数（学級）	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	9	8	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6																			
	1クラスあたり人数	28	27	26	24	24	24	23	22	23	24	23	24	26	28	28	31	33	33	33	33	32	32	32	32																			
水明 小学校	児童数（人）	367	355	339	324	300	274	257	255	247	234	231	225	218	211	210	208	212	208	205	201	198	195	191	188																			
	クラス数（学級）	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	9	9	8	7	6	6	6	6	6																			
	1クラスあたり人数	31	30	28	27	27	25	23	23	22	21	21	20	20	19	21	23	24	26	29	34	33	33	32	31																			
千曲 小学校	児童数（人）	92	93	97	92	88	81	87	87	74	76	68	70	66	65	69	70	75	74	73	72	72	72	71	70																			
	クラス数（学級）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6																			
	1クラスあたり人数	15	16	16	15	15	14	15	15	12	13	11	12	11	11	12	12	13	12	12	12	12	12	12	12																			
3校合計 児童数（人）		797	768	743	704	676	641	616	610	579	569	557	537	515	499	501	494	487	480	474	468	464	459	452	447																			
3校合計 学級数（学級）		24	24	24	24	21	20	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18																			

<中学校>		現在																		10年後										20年後									
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23														
芦原 中学校	生徒数（人）	405	407	390	392	381	374	394	392	380	348	343	332	334	321	298	273	266	276	283	282	278	274	270	266														
	クラス数（学級）	12	12	12	12	12	12	13	13	13	12	12	12	12	11	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9														
	1クラスあたり人数	34	34	33	33	32	31	30	30	29	29	29	28	28	29	30	30	30	31	31	31	31	30	30	30														

再編の必要性有

小諸東中学校区

<小学校>		現在																		10年後										20年後									
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26											
東 小学校	児童数（人）	419	425	429	432	433	410	402	406	397	392	400	380	372	345	329	304	279	275	270	266	262	258	253	248	244	237	229											
	クラス数（学級）	12	14	15	15	15	14	14	15	14	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11												
	1クラスあたり人数	35	30	29	29	29	29	29	27	28	30	31	29	29	29	27	25	23	23	23	22	22	22	21	21	20	20	21											
野岸 小学校	児童数（人）	305	292	270	283	274	255	254	241	236	209	202	199	194	199	202	213	214	210	201	202	198	194	190	186	182	178	175											
	クラス数（学級）	12	12	12	12	12	12	12	11	10	9	8	8	8	9	9	9	9	8	8	6	6	6	6	6	6	6	6											
	1クラスあたり人数	25	24	23	24	23	21	21	22	24	23	25	25	24	22	22	24	24	26	25	34	33	32	32	31	30	30	29											
美南カ 丘 小学校	児童数（人）	624	621	624	613	577	529	544	549	532	547	571	560	534	512	491	463	437	429	421	414	406	398	390	382	374	366	359											
	クラス数（学級）	18	20	20	20	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	17	16	15	14	13	12	12	12	12	12	12											
	1クラスあたり人数	35	31	31	31	30	28	29	29	30	30	32	31	30	28	27	26	26	27	28	30	31	33	33	32	31	31	30											
3校合計 児童数（人）		1,348	1,338	1,323	1,328	1,284	1,194	1,200	1,196	1,165	1,148	1,173	1,139	1,100	1,056	1,022	980	930	914	897	882	866	850	833	816	800	781	763											
3校合計 学級数（学級）		46	46	47	47	37	36	36	36	35	35	36	35	34	33	32	31	30	30	30	30	29	28	27	26	25	24	24											

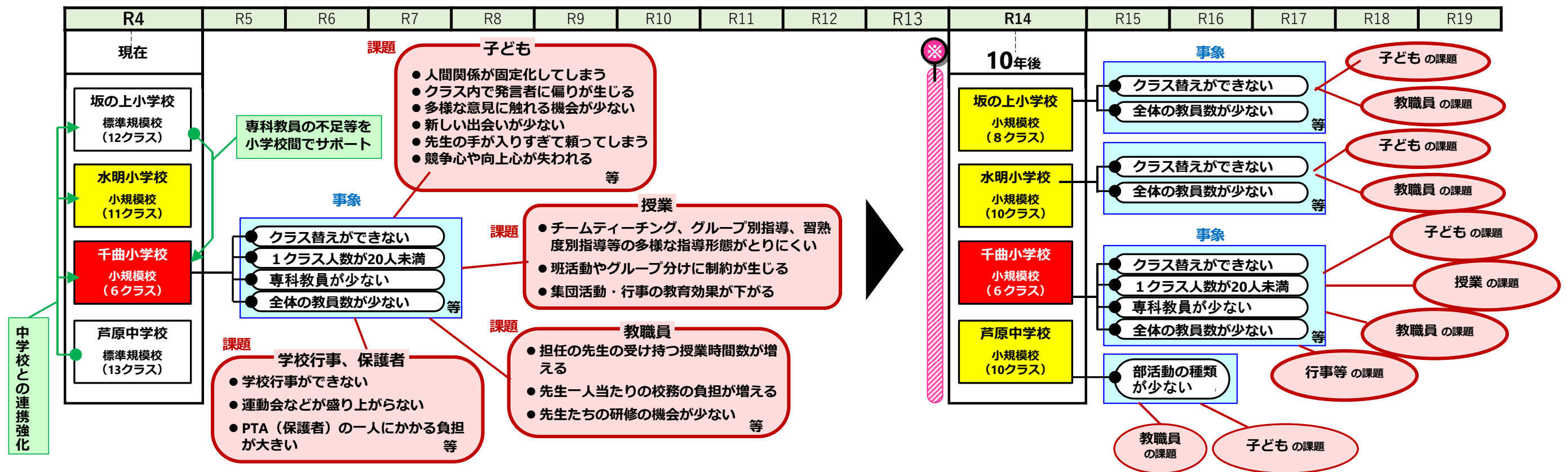
<中学校>		現在																		10年後										20年後									
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26											
小諸東 中学校	生徒数（人）	648	673	694	682	668	644	634	640	634	657	620	585	560	580	569	569	563	524	472	417	410	402	397	390	383	376	369											
	クラス数（学級）	17	20	21	20	19	19	19	20	20	21	20	19	18	18	18	18	18	17	15	13	12	12	12	12	12	12	12											
	1クラスあたり人数	38	34	33	34	35	34	33	32	32	31	31	31	31	32	32	32	31	31	31	32	34	34	33	32	31	31	31											

審議会立ち上げ → 検討開始

当面は現状の学校を残す → ただし、今後10年間で地域拠点機能の導入を図る必要あり

小諸東中学校区では、芦原中学校区に比べて学級規模が維持できるため、当面は現状の学校を維持しつつも、再編について検討を継続する。再編までは、大規模改修等により施設の維持を図りつつ、芦原中学校区と同様に小中一貫教育を推進する。また、地域連携協働スペースの導入や地域ボランティアのサポートといったコミュニティスクールの機能を具体化していく必要がある。

●今後10年間の児童生徒数、クラス数の変化に伴う問題の明確化

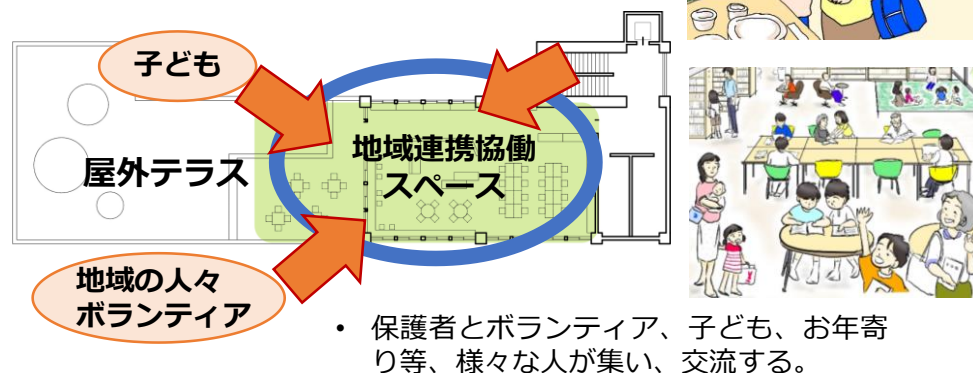


●今後10年間で行うべき対応

小諸東中学校区で行うべき対応（小中一貫教育の推進）

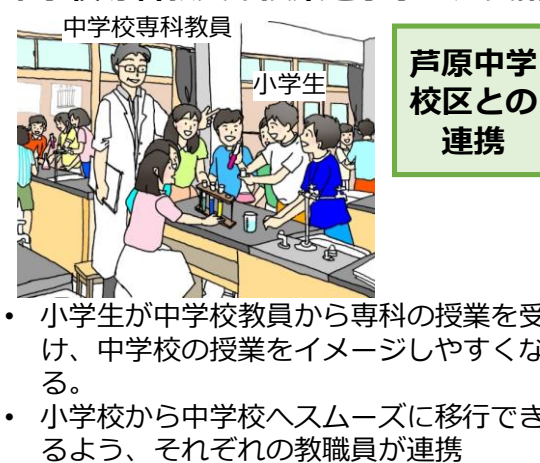
●地域連携協働スペースの導入

学校と地域が連携協働して取り組む教育活動について日常的に計画・実施することが可能になる。

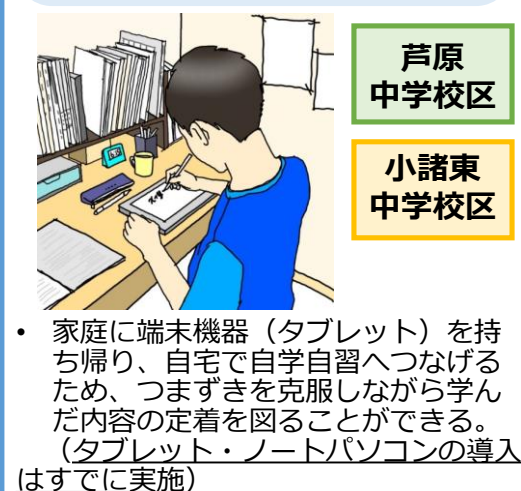


●中学校と各小学校との連携強化

中学校専科教員の授業を小学生が受講



●家庭：学んだ内容の定着を図る 自学自習



●カリキュラムの統一



→ 小諸東中学校区の対応（第5章）

第4章

学校再編計画

1 . 学校再編計画

平成28年からの議論を踏まえ、小諸市の学校再編は次のとおり進めていく。

1 教育について

- ・ 令和10年度の開校を待つことなく、子どもたちの資質・能力を育てるために小諸市全体で小中一貫教育を推進し取り組む。その中で教育課題となっている「不登校の増加」「学力のばらつき」の改善に向けても対応していく。
- ・ 学園制、義務教育学校の導入に向け検討を進める。
- ・ 子どもの育ちを考慮し、6-3制だけではなく4-3-2制、5-4制の導入等についても検討する。
- ・ 学校の地域拠点機能について検討する。

※学園制：既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、9年間の教育目標を設定し9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。関係校を一体的にマネジメントする組織や学校間の総合調整を担う校長を定める。
※義務教育学校：一人の校長の下で一つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態。

2 芦原中学校区の再編について

- ・ 芦原中学校区の統合小学校は、令和10年度の開校を目指し芦原中学校敷地に併設する。
- ・ 検討事項については開校までに解決に向けて段階的に取り組んでいく。

なお、この間、特に多かった意見、検討事項については以下に記載する。

- | | | |
|------------------|---------------|---------------|
| ● 通学区、通学距離 | ● プール、駐車場など施設 | ● 既存小学校の文化の融合 |
| ● 通学方法、スクールバスの運営 | ● 交通渋滞の緩和 | ● PTA活動 |
| ● 見守り隊活動 | ● 給食の運営 | ● 地域活動 |
| ● 放課後の居場所づくり | ● 防犯・セキュリティ | ● 再編に関わる情報の発信 |

3 小諸東中学校区の再編について

- ・ 小諸東中学校区の再編については、芦原中学校区の再編後に実施する。
ただし、その間は児童生徒数の推移等については継続的な把握に努め、再編のための準備を進める。
- ・ 児童生徒の学校生活に支障が出ないよう、大規模改修、必要な維持補修工事の継続実施をする。

第5章

芦原中学校区学校再編計画

1. 現在の学校施設の状況

芦原中学校区には、中学校 1 校と小学校 3 校があり、4 校合計の延床面積は29,364㎡、校地面積は92,040㎡となっている。

● 中学校

芦原中学校

概要情報	
延床面積	12,249㎡
生徒数	381人
学級数（通常12、特支4）	
校地面積 （内 運動場）	31,213㎡ (16,100㎡)



延床面積

4 校合計 29,364㎡

校舎

23,679㎡

体育館

5,685㎡

校地面積

4 校合計 92,040㎡

内 運動場

44,132㎡

	現在	10年後	20年後
	R4 2022	R14 2032	R24 2042
生徒数（人）	381	298	263
通常学級数（学級数）	12	10	9

● 小学校

坂の上小学校

概要情報	
延床面積	6,387㎡
児童数	288人
学級数（通常12、特支2）	
校地面積 （内 運動場）	18,396㎡ (9,039㎡)



延床面積

5,762㎡

生徒数

300人

学級数（通常11、特支3）

校地面積
（内 運動場）

25,100㎡
(11,120㎡)

	現在	10年後	20年後
	R 4 2022	R14 2032	R24 2042
児童数（人）	288	222	188
通常学級数（学級数）	12	8	6

水明小学校

概要情報	
延床面積	5,762㎡
生徒数	300人
学級数（通常11、特支3）	
校地面積 （内 運動場）	25,100㎡ (11,120㎡)



延床面積

4,966㎡

生徒数

88人

学級数（通常6、特支1）

校地面積
（内 運動場）

17,331㎡
(7,873㎡)

	現在	10年後	20年後
	R 4 2022	R14 2032	R24 2042
児童数（人）	300	210	184
通常学級数（学級数）	11	10	6

千曲小学校

概要情報	
延床面積	4,966㎡
生徒数	88人
学級数（通常6、特支1）	
校地面積 （内 運動場）	17,331㎡ (7,873㎡)



延床面積

4,966㎡

生徒数

88人

学級数（通常6、特支1）

校地面積
（内 運動場）

17,331㎡
(7,873㎡)

	現在	10年後	20年後
	R 4 2022	R14 2032	R24 2042
児童数（人）	88	69	69
通常学級数（学級数）	6	6	6

※概要情報の児童生徒数・学級数は令和4年5月1日現在
※表中の児童生徒数は特別支援含む

(1) 計画条件・ポイント

- ・現時点での計画面積、想定諸室を以下に整理。これを基に次ページ以降で建物配置案。ゾーニング案を示す。ただし、この案はイメージであり今後の基本設計、詳細設計の中で改めて条件整理、見直しが必要。
- ・小学校の統合によって通学範囲が拡大するため、遠距離通学者のためにスクールバス導入や敷地内にスクールバスの待機スペースを設置することを検討する。また、安全確保のため、歩車道分離を徹底する。
- ・小中併設の利点を活かし、小学校と中学校の間に小中交流スペースを設置することで、学年を超えた交流が常に可能となる。また、回遊性のある小中一体空間として整備し、2階を拠点として、小学生と中学生との交流、生徒と教員の交流、小中教職員の交流などの様々な交流が生まれることが期待できる。
- ・既存校舎1階のエントランスは、小学校と中学校をつなぐ交流スペースとライブラリに転用する。地域開放スペースでは、放課後に補習や読み聞かせなどを行うが、地域住民専用の出入口を設けて、時間外活用時等のセキュリティ確保にも留意した計画案となっている。
- ・「合理的配慮」「ユニバーサルデザイン」に基づく学習環境として、全フロアバリアフリーの実現、カウンターや掲示板などは誰もが使いやすいユニバーサルデザインを検討する。

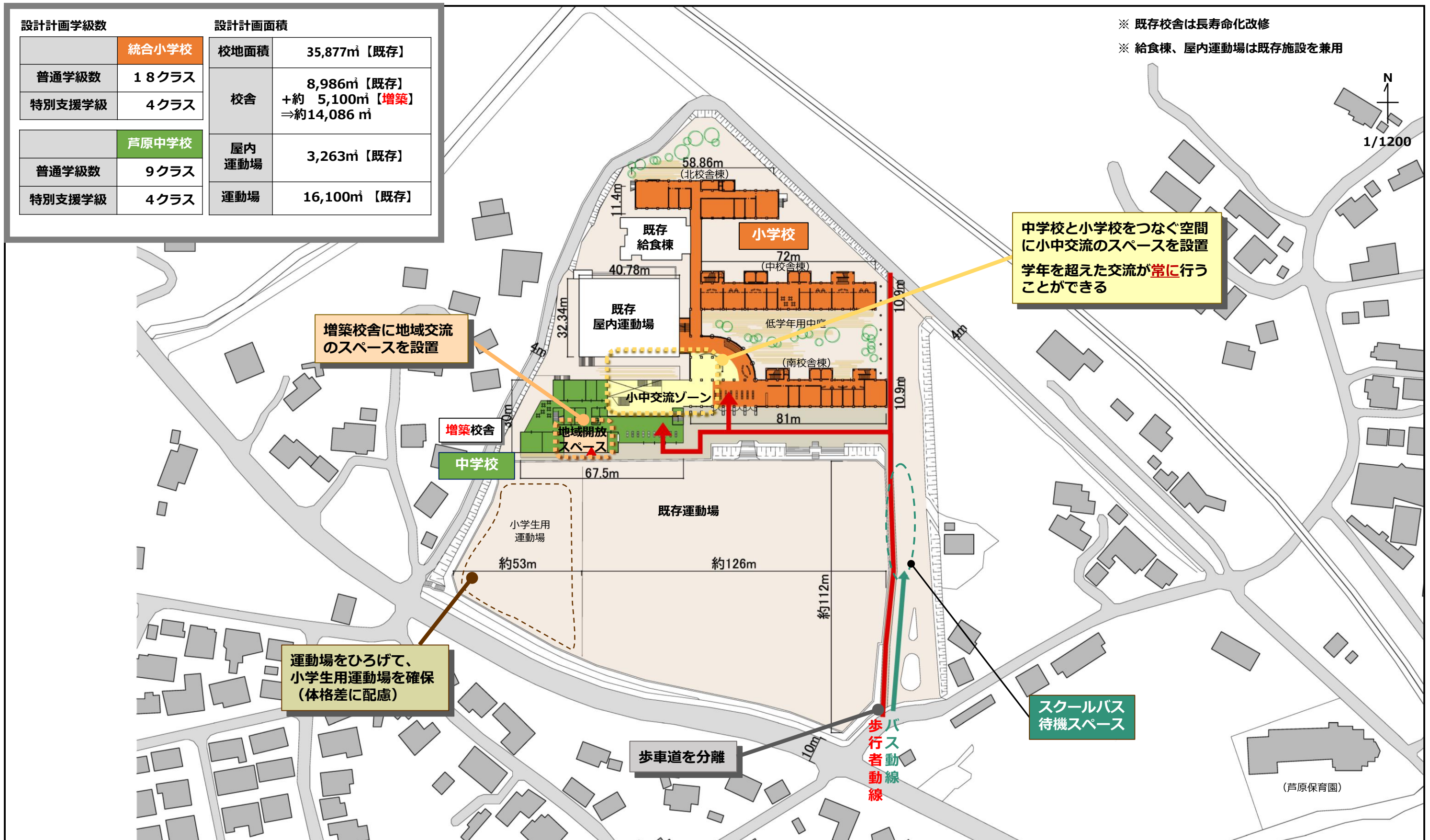
前提条件		＜小中併設校＞...長寿命化改修+増築															
校地	校地面積	芦原中学校敷地 35,877㎡ ・敷地は2段敷地で、北側の高い敷地に校舎・体育館、南側に運動場3方向は市道に面し、隣地に面する東側は南北をつなぐ校内通路 ・芦原中学校の周辺隣地を活用して敷地を拡大することを検討															
	敷地状況																
職員数 児童生徒数 学級数 ↓ 学級数より学校のボリューム (目安)算出		R10年															
		統合小 教職員		芦原中 教職員		小学校		児童数		学級数		中学校		生徒数		学級数	
		校長	1人	校長	1人	1年生	86人	3CR	1年生	114人	4CR						
		教頭	1人	教頭	1人	2年生	86人	3CR	2年生	110人	4CR						
		担任	18人	担任	18人	3年生	78人	3CR	3年生	119人	4CR						
		特支学級	6人	特支学級	0人	4年生	98人	3CR	特支	19人	4CR						
		専科	2人	専科	-人	5年生	105人	3CR									
		養護、事務	2人	養護、事務	2人	6年生	104人	3CR									
		その他	4人	その他	4人	特支	25人	4CR									
		非常勤	0人	非常勤	0人	合計	557人	18CR	合計	343人	12CR						
教員(県)・計	35人	教員(県)・計	26人														
職員(市)・計	17人	職員(市)・計	11人														
合 計	52人	合 計	37人														
設計条件		R10 R20															
		児童数		557人		464人		生徒数		343人		278人					
		普通学級数		18クラス		18クラス		普通学級数		12クラス		9クラス					
		特別支援学級		4クラス		4クラス		特別支援学級		4クラス		4クラス					
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		6,693㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,215㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,820㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1)		1,138㎡									
		運動場(※2)		4,170㎡		運動場(※2)		4,170㎡									
		※1：国庫補助基準 ※2：学校設置基準															
		校舎等必要面積(学級数より算出)															
		校舎(※1)		5,690㎡		校舎(※1)		5,690㎡									
		屋内運動場(※1)		1,138㎡		屋内運動場(※1											

✓ 特別教室、職員室、プールなどは、小学校・中学校で共用する。

✓ 児童生徒同士、小・中教職員、子どもと教員などの日常的な交流が可能

(2) 建物配置案とゾーニング案

増築する新校舎は、主に中学校棟として活用する。既存の中学校校舎は改修して小学校として活用する。2つの校舎の間には交流ゾーンを設けて回遊性のある小中一体空間を整備する。運動場は既存のテニスコート部分を一部広げて小学生用運動場を確保し、体格差に配慮するなど工夫する。



(3) 活用イメージ

小中併設の利点を活かし、小学校と中学校の間に小中交流スペースを設置することで、学年を超えた交流が常に可能となる。また、回遊性のある小中一体空間として整備し、2階を拠点として、小学生と中学生との交流、生徒と教員の交流、小中教職員の交流などの様々な交流が生まれることが期待できる。

既存校舎をリニューアルするにあたっての対応

● 特別教室は新しい什器を採用し兼用可能に



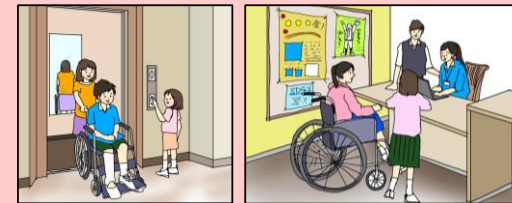
✓ 家庭科室へ昇降式調理台の導入、理科室等は高さの調節できる椅子を採用することで、体格差の異なる小学生から中学生までが利用できる特別教室に

● 小学生用のトイレに改修



✓ 小学生の体格に合わせた器具を設置、トイレ前はベンチ等を配して憩いのスペースに。

● ユニバーサルデザイン



✓ 1階・2階・3階へは既存EVと新設するEV(計4基)によって移動でき、各棟に回遊できる全フロアバリアフリーを実現。EVカウンターや掲示板などは誰もが使いやすいユニバーサルデザインに

● 既存エントランスを活用した交流スペース



✓ 既存校舎1階エントランスを、小学生の交流スペースとライブラリに転用
✓ 既存の中学生用階段に手すりや滑り止めを設置することで、法的基準をクリア
✓ 既存の内装を活かしながら、明るい雰囲気演出

ボランティアとの交流

● 地域開放スペース



✓ 放課後に補習学習や読み聞かせなどを行い、子供たちの学びをサポート
✓ 専用の出入口を設け平日でも利用可能な空間

低学年の学習環境

● 1階は低学年スペースに



✓ 1階は増築エリアを含めて、低学年が活動できる施設・スペースを集約

● 多目的室での活動



✓ アクティビティ重視の授業

● オープンスペースのある教室

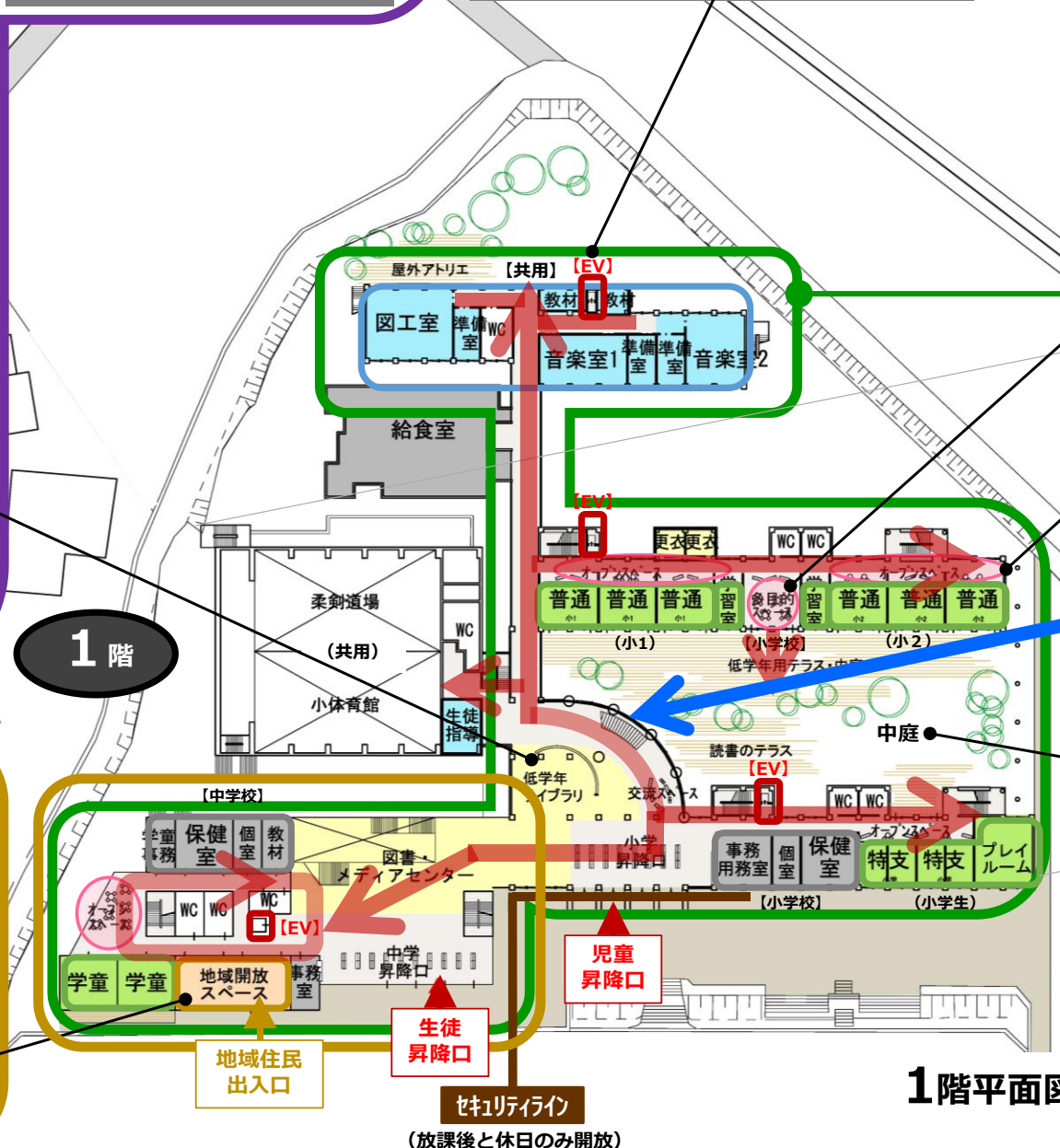


✓ 普通教室前にはオープンスペースを設置し、様々な学習形態に対応

● 既存の中庭を活用したテラス



✓ 低学年クラスの前に広がる中庭・中庭の植栽は既存を再利用

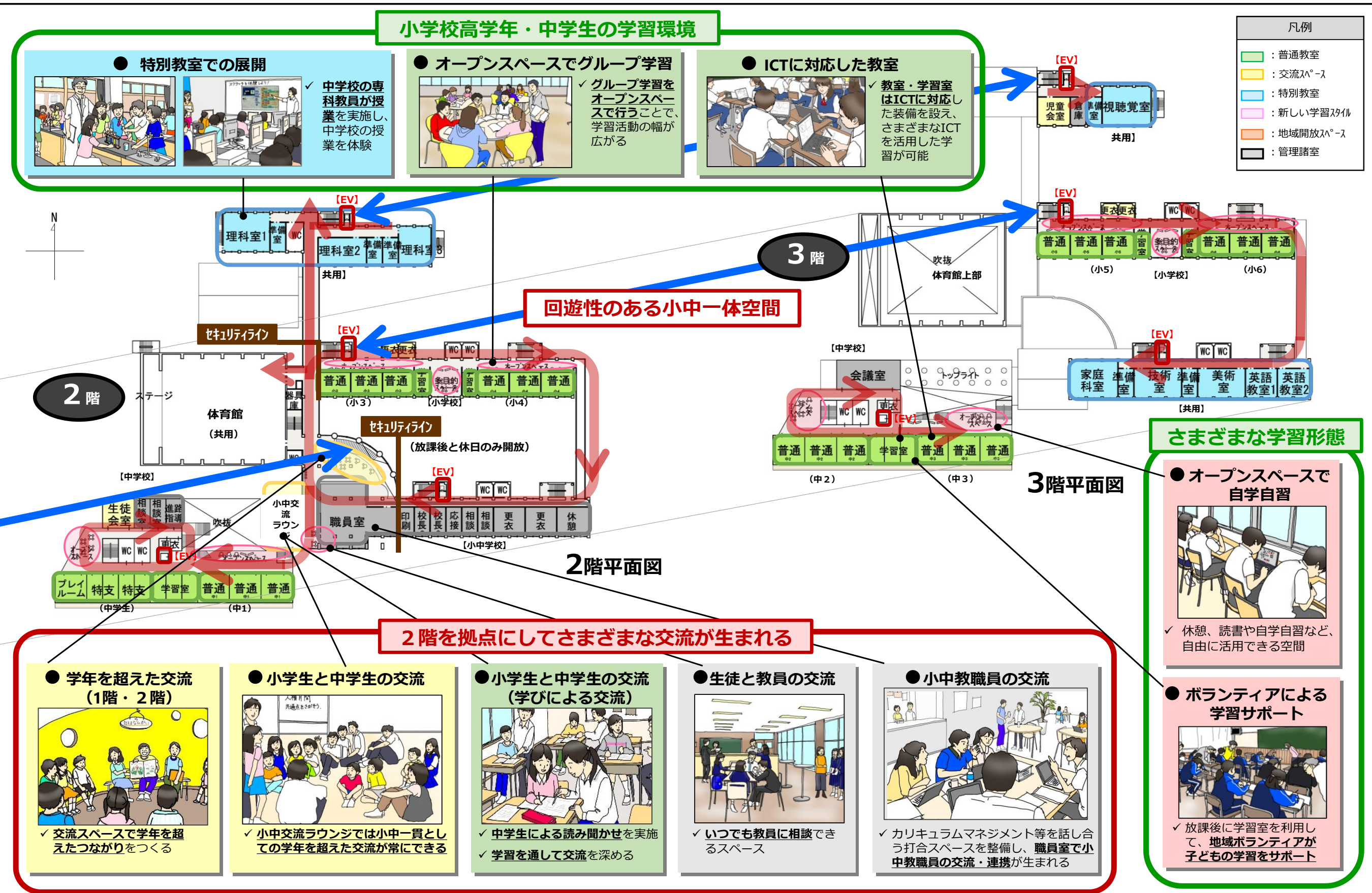


1階平面図

2. 芦原中学校区再編計画について

※本計画案は配置等を検討するためのイメージであり、この案を確定するものではありません。

既存校舎1階のエントランスは、小学校と中学校をつなぐ交流スペースとライブラリに転用する。地域開放スペースでは、放課後に補習や読み聞かせなどを行うが、地域住民専用の出入口を設けて、時間外活用時等のセキュリティの確保にも留意した計画案となっている。



2 . 芦原中学校区再編計画について

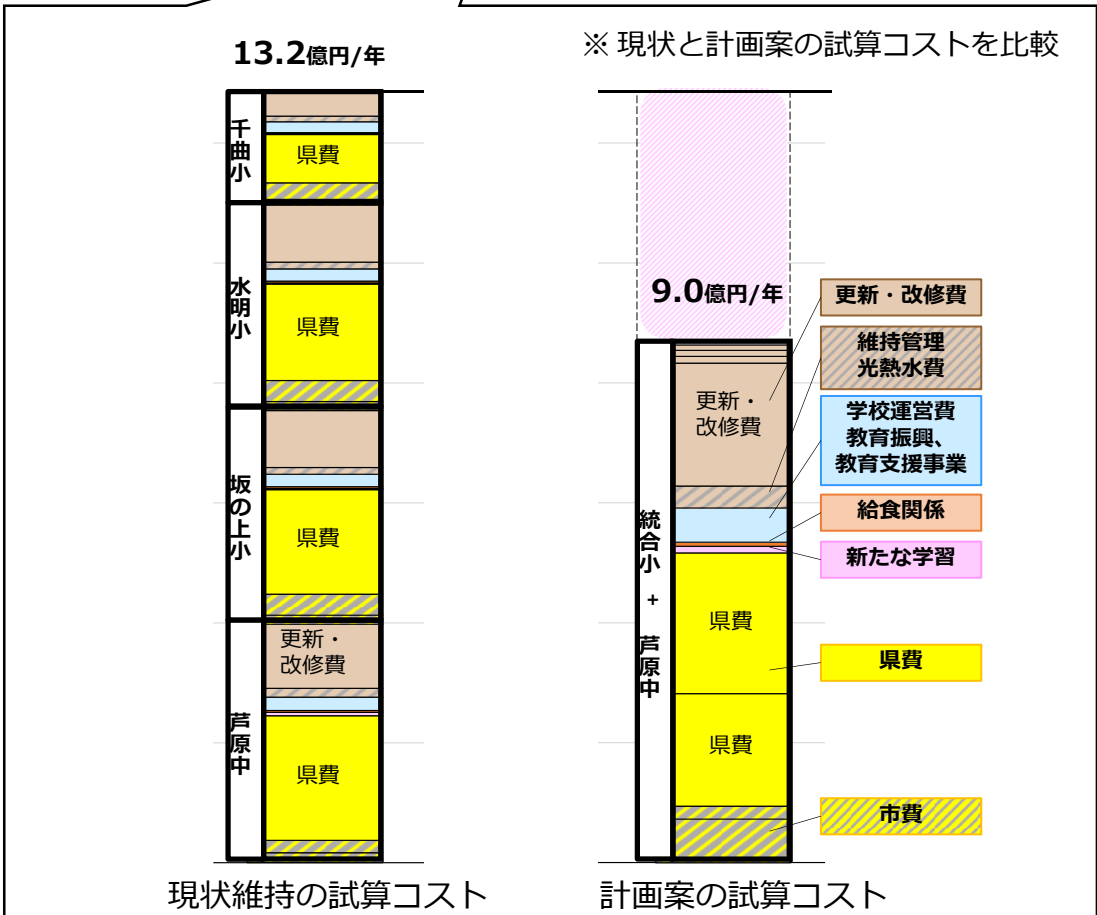
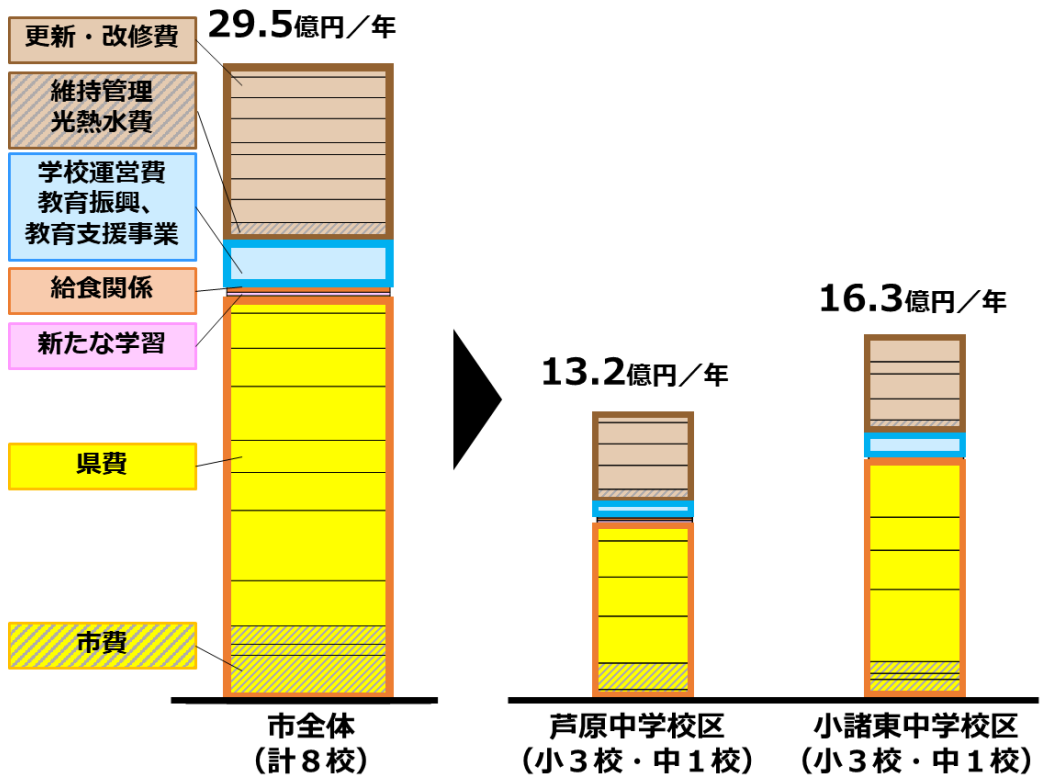
(4) コスト把握・比較

学校に係る現状コストを試算すると建物の更新・改修等に係る費用のほか、建物管理委託費等の維持管理費や学校運営に係る費用、教職員等の人件費等、給食関連費等あわせて市全体で29.5億円、芦原中学校区では13.2億円、小諸東中学校区では16.3億円となっている。

また、建物配置案で試算した場合のコストは年間9.0億円となっている。

●小諸市小中学校の現状コストの把握（小学校6校・中学校2校）

施設面	更新・改修費	学校施設長寿命化計画における20年間総額 (単年度平均)
	維持管理	小学校施設維持管理事業、中学校施設維持 管理事業、
	光熱水費	ガス・電気・灯油・上下水道
管理 運営面	学校運営費	学校運営費、長期学校改築計画策定事業、 小学校管理費運営費、小学校管理費給与費、 小学校保健事業、中学校管理費運営費、中 学校給与費運営費、中学校保健事業、
	教育振興、 教育支援事業	小学校教育振興事業、小学校教育支援事業、 中学校教育振興事業、中学校教育支援事業
新たな 学習	ICT推進事業	英語教育推進事業、小学校ALT配置事業、小 学校 I C T 教育推進事業、中学校ALT配置事 業、中学校 I C T 教育推進事業、
教職員	県費	校長、教頭、教諭（担任・特別支援・専 科・養護・栄養・日本語）、非常勤、事務、 部活指導
	市費	栄養士・調理員
		事務・司書・用務員
		支援員・ALT・部活動外部支援員 等
給食関連		学校給食食材放射性物質測定事業、小学校 給食運営事業、中学校給食運営事業
スクールバス（現在）		首長部局予算で一部実施
現状コストの合計		29.5 億円/年



第6章

小諸東中学校区再編計画

1. 現在の学校施設の状況

小諸東中学校区には、中学校 1 校と小学校 3 校があり、4 校合計の延床面積は32,759㎡、校地面積は106,973㎡となっている。

●中学校

小諸東中学校

概要情報	
延床面積	12,637㎡
生徒数	668人
学級数（通常19、特支4）	
校地面積 (内 運動場)	41,352㎡ (23,837㎡)



Google
画像 ©2023 CNES / Airbus, Maxar Technologies, 地図データ ©2023

延床面積 4校合計 32,759㎡
(校舎 26,354㎡
体育館 6,405㎡)

校地面積 4校合計 106,973㎡
(内 運動場 52,820㎡)

	現在	10年後	20年後
	R 4 2022	R14 2032	R24 2041
生徒数（人）	668	569	383
通常学級数（学級数）	19	18	12

※概要情報の児童生徒数・学級数は令和4年5月1日現在
※表中の児童生徒数は特別支援含む

●小学校

東小学校

概要情報	
延床面積	5,110㎡
児童数	433人
学級数（通常15、特支3）	
校地面積 (内 運動場)	20,775㎡ (8,798㎡)



Google
画像 ©2023 Maxar Technologies, 地図データ ©2023

	現在	10年後	20年後
	R4 2022	R14 2032	R24 2042
児童数（人）	433	329	244
通常学級数（学級数）	15	12	12

野岸小学校

概要情報	
延床面積	6,027㎡
生徒数	274人
学級数（通常12、特支2）	
校地面積 (内 運動場)	18,314㎡ (6,919㎡)



Google
画像 ©2023 Maxar Technologies, 地図データ ©2023

	現在	10年後	20年後
	R4 2022	R14 2032	R24 2042
児童数（人）	274	202	182
通常学級数（学級数）	12	9	6

美南ガ丘小学校

概要情報	
延床面積	8,985㎡
生徒数	577人
学級数（通常19、特支6）	
校地面積 (内 運動場)	26,532㎡ (13,266㎡)



Google
画像 ©2023 Maxar Technologies, 地図データ ©2023

	現在	10年後	20年後
	R4 2022	R14 2032	R24 2042
児童数（人）	577	491	374
通常学級数（学級数）	19	18	12

2. 現状を今後も維持していく場合の課題と再編までに今後行すべき対応（第3章より再掲）

小諸東中学校区では、芦原中学校区に比べて学級規模が維持できるため、当面は現状の学校を維持しつつも、再編について検討を継続する。再編までは、大規模改修等により施設の維持を図りつつ、芦原中学校区と同様に小中一貫教育を推進する。また、地域連携協働スペースの導入や地域ボランティアのサポートといったコミュニティスクールの機能を具体化していく必要がある。

小諸東中学校区

<小学校>			現在													10年後													20年後												
			H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26												
東小学校	児童数（人）		419	425	429	432	433	410	402	406	397	392	400	380	372	345	329	304	279	275	270	266	262	258	253	248	244	237	229												
	クラス数（学級）		12	14	15	15	15	14	14	15	14	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11												
	1クラスあたり人数		35	30	29	29	29	29	29	29	27	28	30	31	29	29	29	27	25	23	23	23	22	22	22	21	21	20	20	21											
野岸小学校	児童数（人）		305	292	270	283	274	255	254	241	236	209	202	199	194	199	202	213	214	210	200	202	198	194	190	186	182	178	175												
	クラス数（学級）		12	12	12	12	12	12	12	11	10	9	8	8	8	9	9	9	9	8	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6											
	1クラスあたり人数		25	24	23	24	23	21	21	22	24	23	25	25	24	22	22	24	24	26	25	34	33	32	32	31	30	30	29												
美南カ丘小学校	児童数（人）		624	621	624	613	577	529	544	549	532	547	571	560	534	512	491	463	437	429	421	414	406	398	390	382	374	366	359												
	クラス数（学級）		18	20	20	20	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	17	16	15	14	13	12	12	12	12	12	12												
	1クラスあたり人数		35	31	31	31	30	28	29	29	30	30	32	31	30	28	27	26	26	27	28	30	31	33	33	32	31	31	30												
3校合計 児童数（人）			1,348	1,338	1,323	1,328	1,284	1,194	1,200	1,196	1,165	1,148	1,173	1,139	1,100	1,056	1,022	980	930	914	897	882	866	850	833	816	800	781	763												
3校合計 学級数（学級）			46	46	47	47	37	36	36	36	35	35	36	35	34	33	32	31	30	30	30	30	29	28	27	26	25	24	24												
<中学校>			H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26												
小諸東中学校	生徒数（人）		648	673	694	682	668	644	634	640	634	657	620	585	560	580	560	569	563	524	472	417	410	402	397	390	383	376	369												
	クラス数（学級）		17	20	21	20	19	19	19	20	20	21	20	19	18	18	18	18	18	17	15	13	12	12	12	12	12	12	12												
	1クラスあたり人数		38	34	33	34	35	34	33	32	32	31	31	31	31	32	31	32	31	31	31	32	34	34	33	33	32	31	31												

当面は現状の学校を残す → ただし、今後10年間で地域拠点機能の導入を図る必要あり

● 今後10年間で行うべき対応

小諸東中学校区で行うべき対応（小中一貫教育の推進）

● 地域連携協働スペースの導入

学校と地域が連携協働して取り組む教育活動について日常的に計画・実施することが可能になる。

子ども

屋外テラス

地域の人々ボランティア

地域連携協働スペース

保護者とボランティア、子ども、お年寄り等、様々な人が集い、交流する。

● 中学校と各小学校との連携強化

中学校専科教員の授業を小学生が受講

中学校専科教員

小学生

芦原中学校区との連携

小学生が中学校教員から専科の授業を受け、中学校の授業をイメージしやすくなる。

小学校から中学校へスムーズに移行できるよう、それぞれの教職員が連携

● 家庭：学んだ内容の定着を図る
自学自習

芦原中学校区

小諸東中学校区

家庭に端末機器（タブレット）を持ち帰り、自宅で自学自習へつなげるため、つまづきを克服しながら学んだ内容の定着を図ることができる。（タブレット・ノートパソコンの導入はすでに実施）

● カリキュラムの統一

芦原中学校区

小諸東中学校区

2中学校区間でのカリキュラムの統一を図る。

3. 小諸東中学校区の検討の方向性および再編の進め方

小諸東中学校区も、美南ガ丘小学校では、令和2年度南校舎と第2体育館の大規模改修、小諸東中学校では、屋内運動場と北校舎の大規模改修を実施済みとなっている。
引き続き、小諸東中学校の中校舎と南校舎の大規模改修を実施する予定となっており、小諸東中学校区においても計画的に修繕・改修等を実施していく。

◆小諸東中学校区 建物情報一覧

建物基本情報													構造躯体の健全性				躯体以外の劣化状況							履歴		年次計画(目標耐用年数/修繕・改修サイクル)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
施設名	表示順	棟名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性		長寿命化判定		棟	屋根・屋上	外壁	外部建具	電気設備	給排水管	冷暖房設備	エレベーター	健全度 (100点満点)	履歴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
						西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度										圧縮強度 (N/mm ²)	試算上区分	20年前						10年前						10年後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
																								H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
小諸東中	1	北校舎(西)	RC	3	2,224	1990	H2	32	新	-	-	-	B	B	A	B	C	C	B	-	69																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

●小諸東中学校
大規模改修実施状況、予定

- ✓ 令和2年度：屋内運動場
- ✓ 令和3年度：北校舎（東側）
- ✓ 令和4年度：北校舎（西側）
- ✓ 令和5年度：中校舎 予定
- ✓ 令和6年度：南校舎 予定

●美南ガ丘小学校
大規模改修実施済み（R2年度）



音楽室



図書室



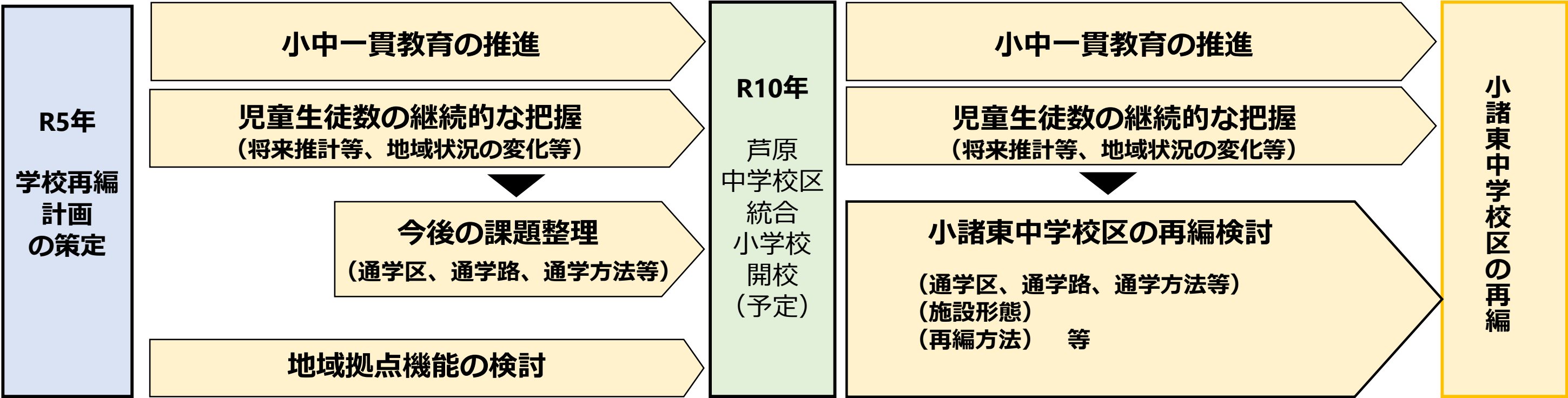
視聴覚室

・美南ガ丘小学校の南校舎と第2体育館はすでに大規模改修が完了している

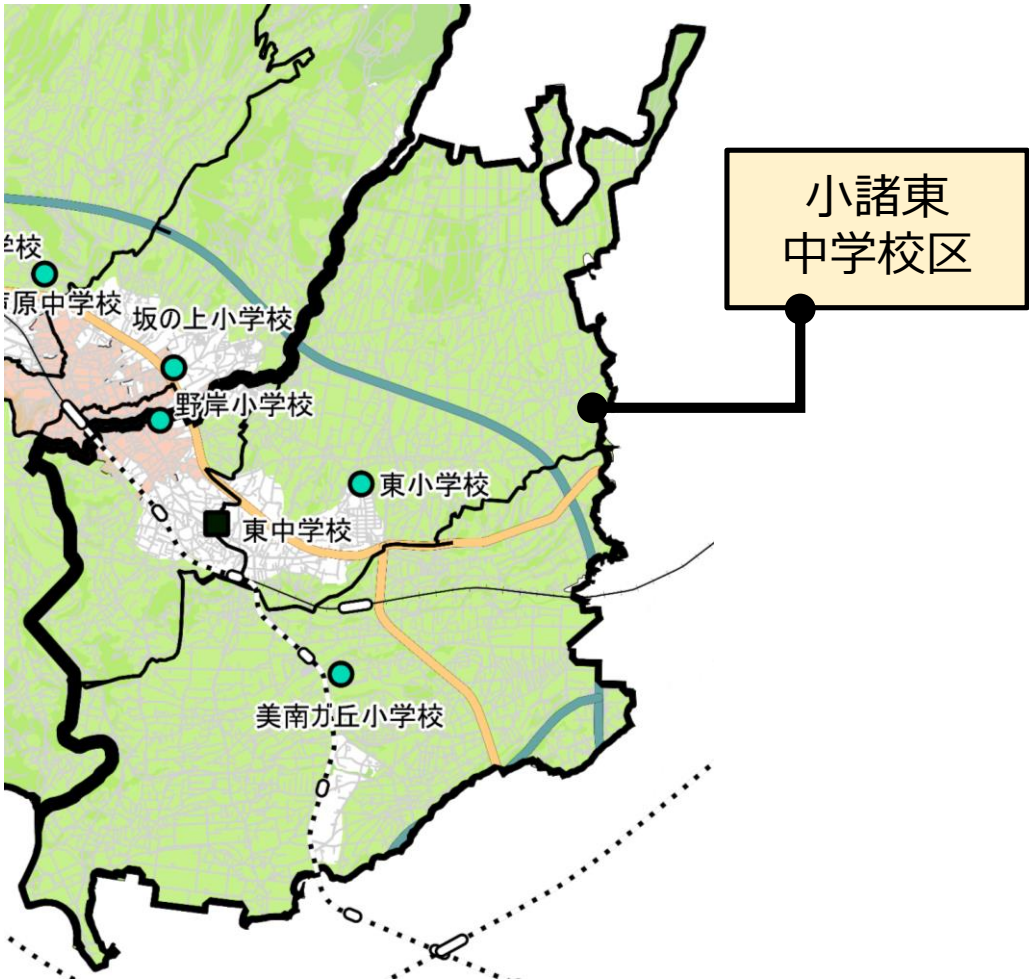
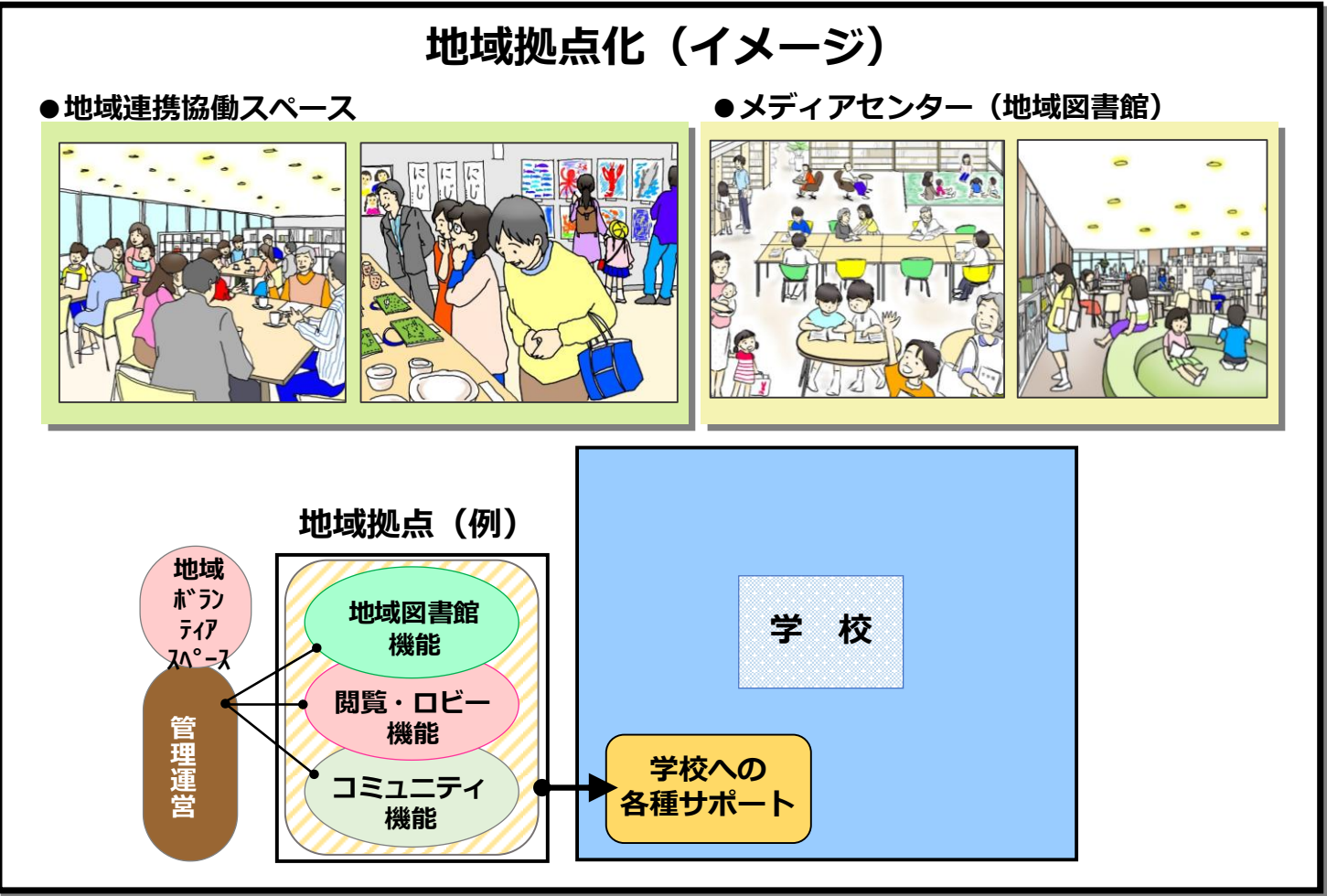
コミュニティ・スクール化を図る

将来の再編も見据えながら、小中一貫教育を進めていく。

小諸東中学校区の再編は次のとおり進める。



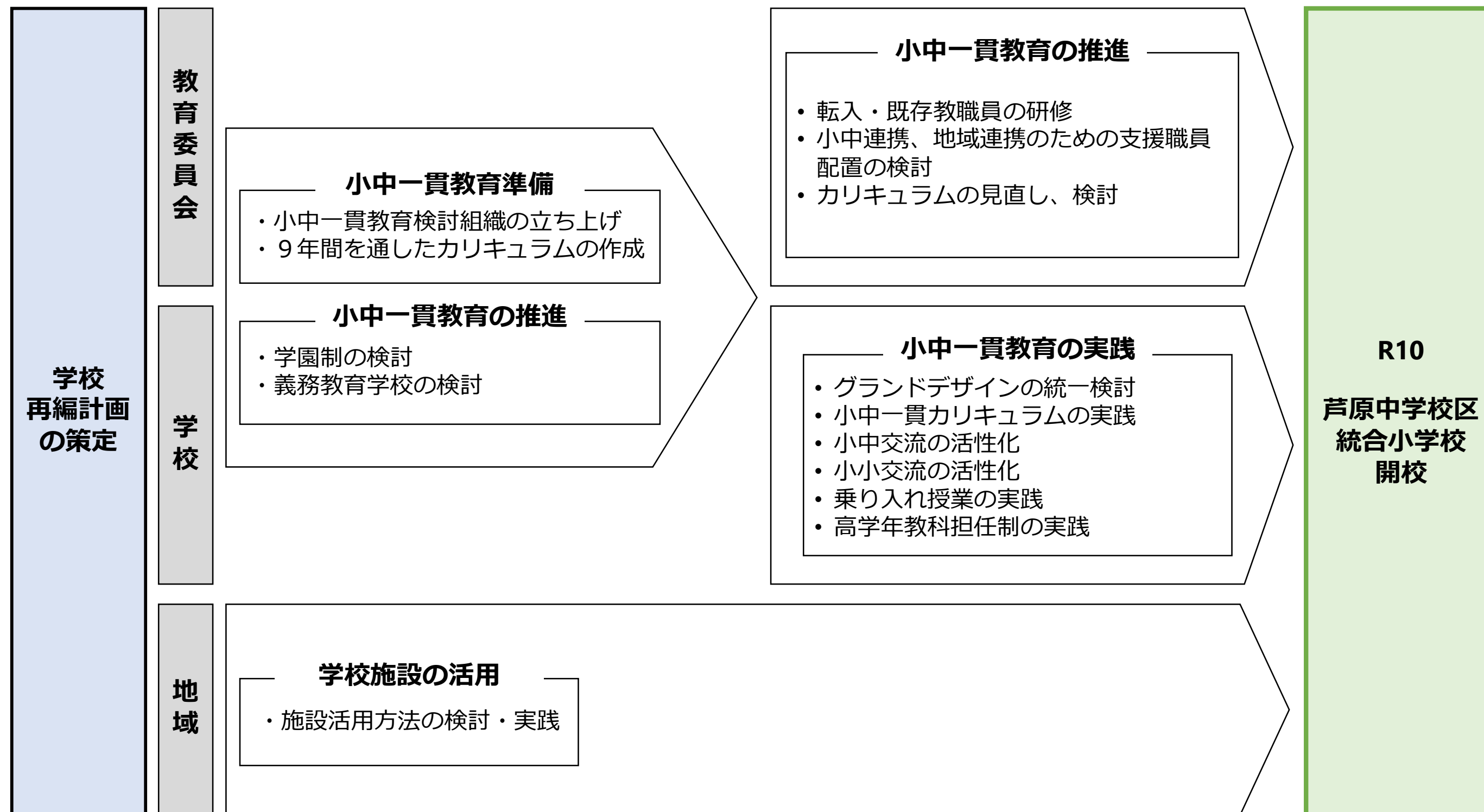
■ 芦原中学校区の再編とあわせて小諸東中学校区に地域拠点機能の導入を検討する



第7章 今後に向けて

1. 小中一貫教育の推進

小諸市全域での小中一貫教育の推進のために次の検討事項に沿って検討を進める。



2. 今後の検討課題

望ましい学校の実現に向けて、再編と同時に検討すべきこととして、次の三点が考えられる。次年度以降、具体化していく。

小諸市学校再編計画

芦原中学校校区再編



再編に伴う望ましい学校の実現に向けて同時に検討すべき項目

1 2つの中学校区のコミュニティ・スクール（地域拠点）の方向性（芦原中学校区、小諸東中学校区）

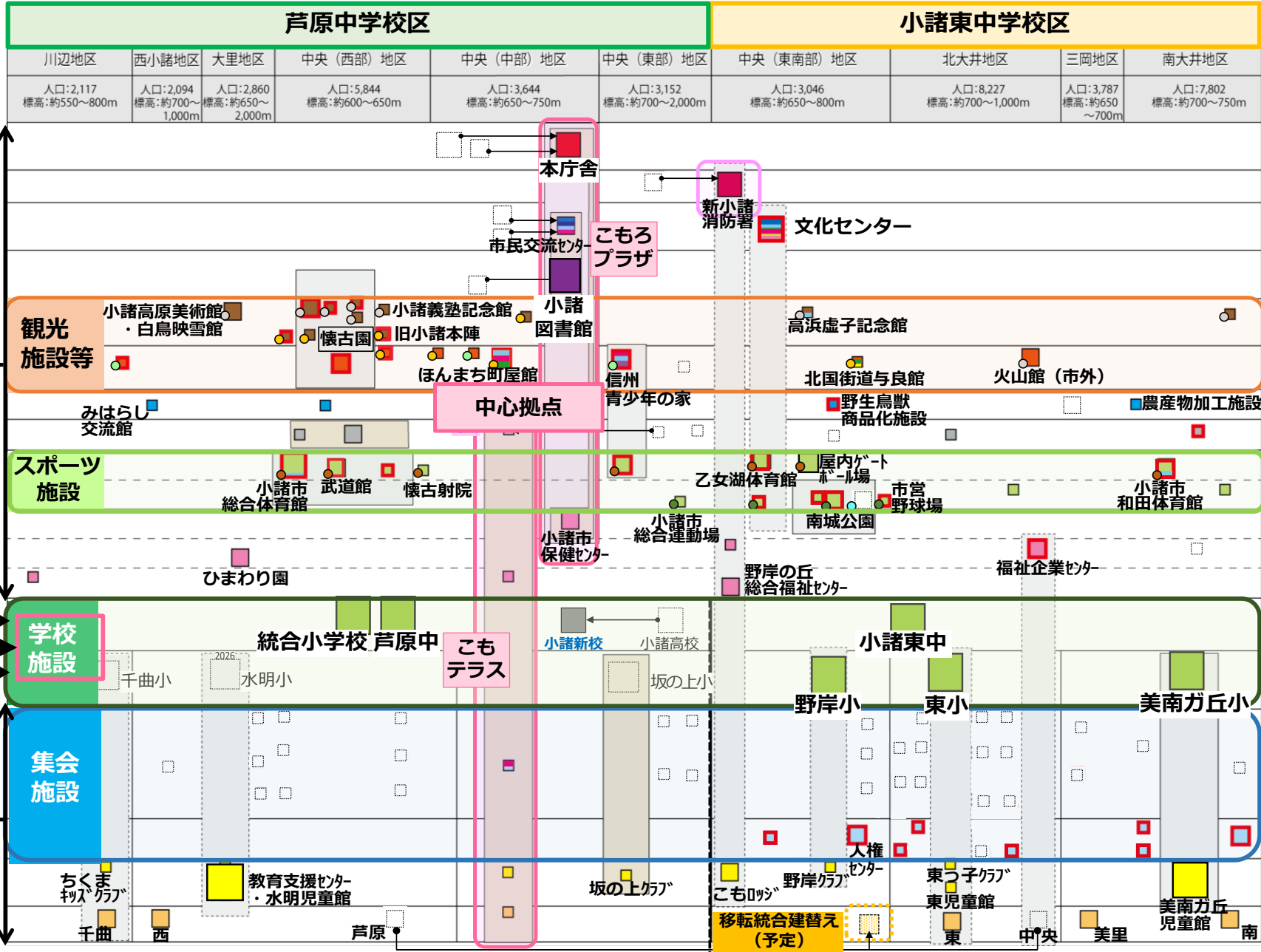
2 スクールバスの導入
〔小諸市内のバス交通の現状、スクールバスの検討〕

3. 各項目の検討の方向性例

(1) 2つの中学校区のコミュニティ・スクール（地域拠点）の方向性の検討について

1 2つの中学校区のコミュニティ・スクール（地域拠点）の方向性（芦原中学校区、小諸東中学校区）

＜地域実態マップ＞



公共施設 約21.6万㎡（内、学校施設5.8万㎡・約27%）
令和3年度

3. 各項目の検討の方向性例

■ 2つの中学校区の特徴をもったコミュニティ・スクール（地域拠点）のイメージ

芦原中学校区だけでなく、小諸東中学校区も含めて、コミュニティ・スクール化（地域の拠点化）を図る必要があり、今後、内容について具体化していく。

地域拠点機能の導入の必要性

- 教員の負担軽減
- 地域ボランティア等の活動拠点の確保

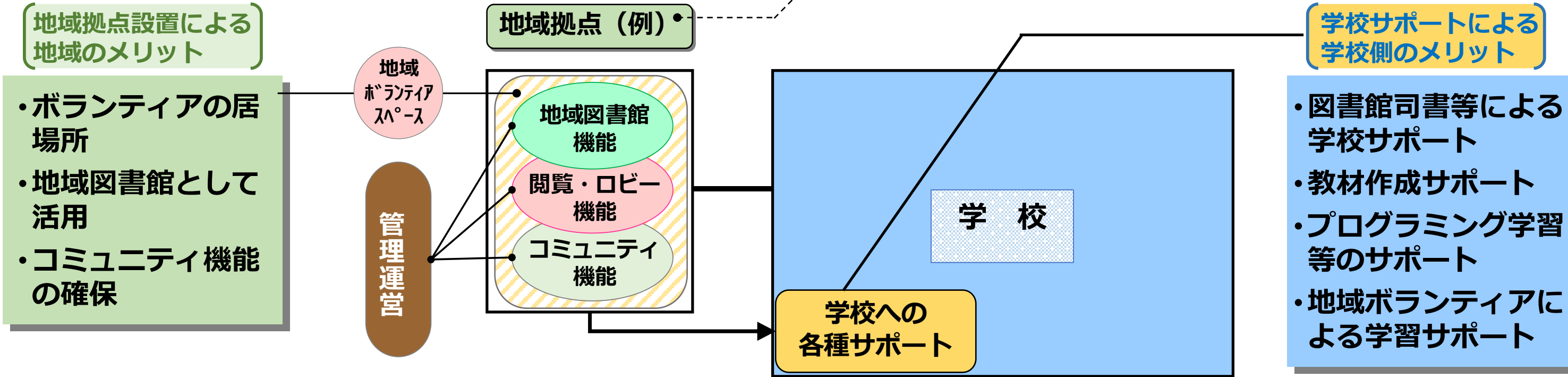
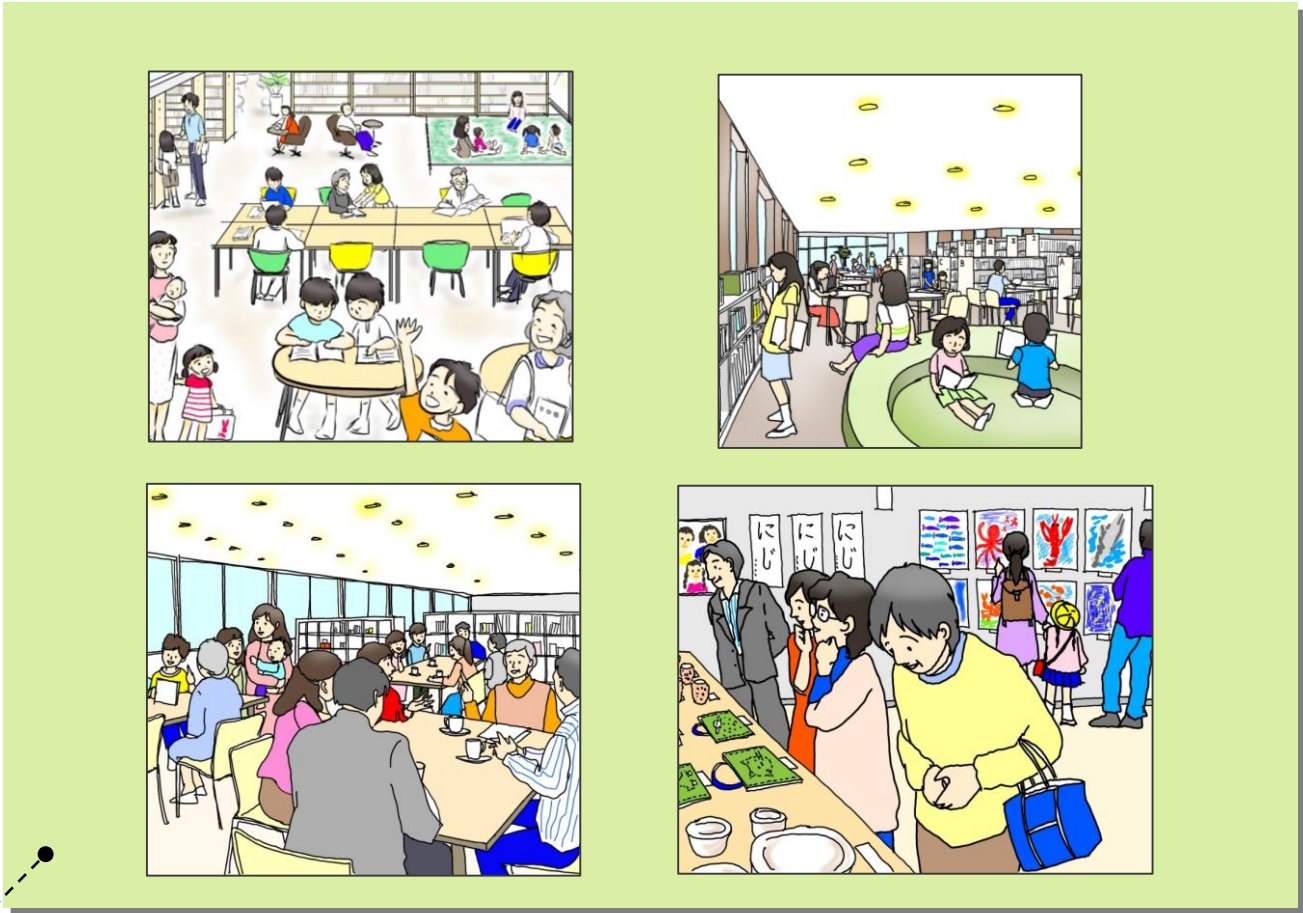
① 学校を地域が支える
（学校をさまざまな面でサポート）
（地域の人が集まれる、居場所づくり）

② 公共施設との連携で、施設の維持管理の効率化とコストの最適化を図る

メリット【地域拠点化】

地域拠点として求められる機能を導入することで、地域活動するスペースの確保ができ、導入機能に基づき学校サポートが可能となる

≪地域拠点イメージ≫



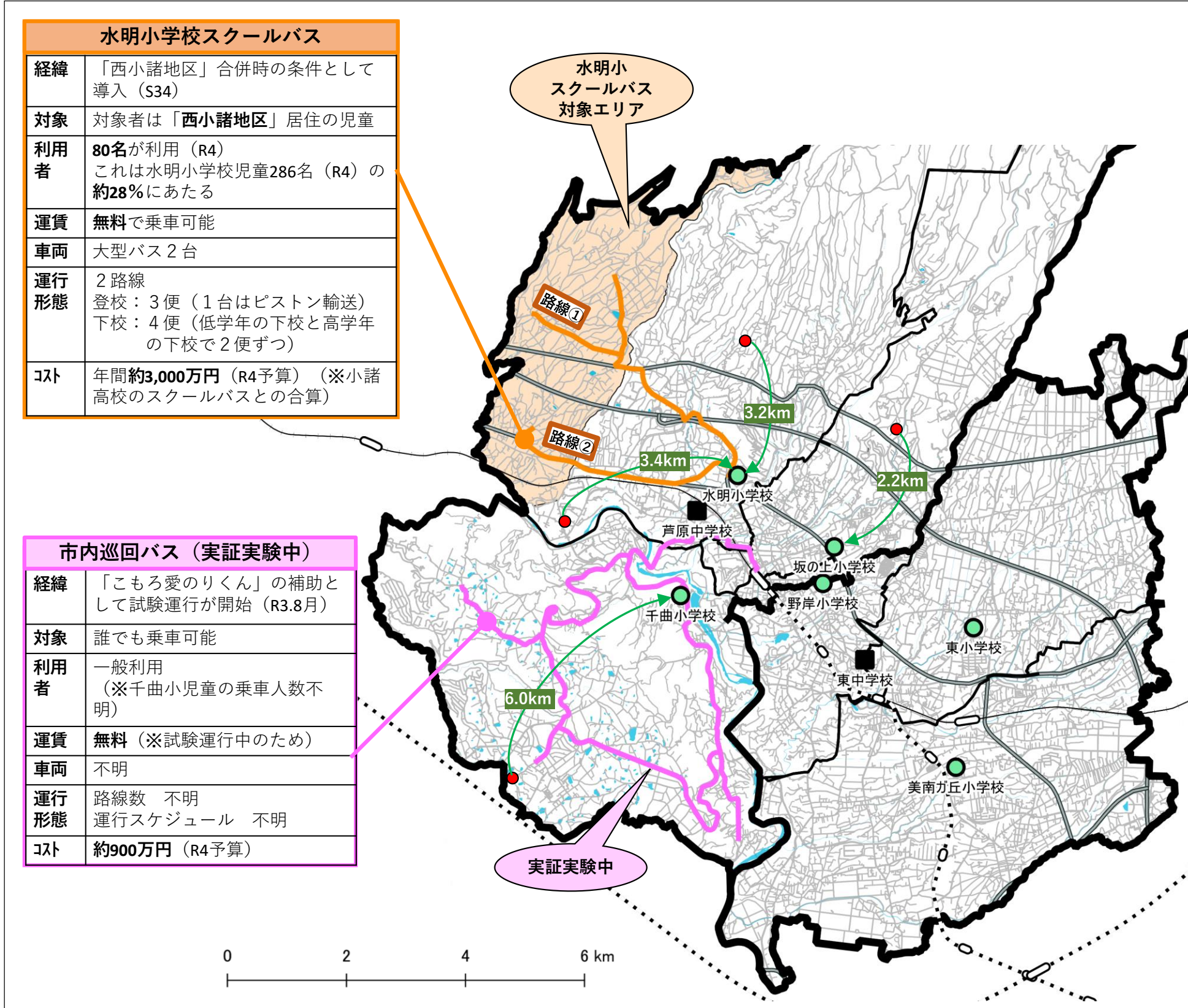
3. 各項目の検討の方向性例

(2) スクールバスの検討について

学校再編を実施するには、通学路の安全確保等も重要な点であり、スクールバスの検討も不可欠となる。その際、児童だけではなく、地元の住民が日常生活でも利用できるよう小諸市の地域公共交通の充実も含めた検討を行うなど、さまざまな可能性について複数検討していく。

2 スクールバスの導入
(小諸市内のバス交通の現状、スクールバスの検討)

＜小諸市内のバス交通の現状＞



水明小学校スクールバス	
経緯	「西小諸地区」合併時の条件として導入 (S34)
対象	対象者は「西小諸地区」居住の児童
利用者	80名が利用 (R4) これは水明小学校児童286名 (R4) の約28%にあたる
運賃	無料で乗車可能
車両	大型バス2台
運行形態	2路線 登校：3便 (1台はピストン輸送) 下校：4便 (低学年の下校と高学年の下校で2便ずつ)
コスト	年間約3,000万円 (R4予算) (※小諸高校のスクールバスとの合算)

市内巡回バス (実証実験中)	
経緯	「こもろ愛のりくん」の補助として試験運行が開始 (R3.8月)
対象	誰でも乗車可能
利用者	一般利用 (※千曲小児童の乗車人数不明)
運賃	無料 (※試験運行中のため)
車両	不明
運行形態	路線数 不明 運行スケジュール 不明
コスト	約900万円 (R4予算)

◆小諸市内のバス交通の現状

- 水明小学校スクールバスは、「西小諸地区」居住の水明小学校の児童を対象とし、2路線で、朝7時台3便/日、夕方15～16時台4便/日、計7便/日で運行している。
- 市内巡回バスは、千曲小学校エリアで実証実験運行中。

◆統合小の開校に向けたスクールバスの検討

- 小諸市地域公共交通網形成計画を基本とし、統合後も児童生徒が確実に通学できるように安全と通学手段を確保したスクールバスの見直し案を検討する。
- 統合後、通学距離が長くなる場合や徒歩による通学が困難な地域がある場合は、バスで通学できるようにルート、運行頻度、運行時間帯などの運行形態を検討する。
- 児童だけではなく、地元の住民が日常生活でも利用できるようにし、通学目的ではなく、買い物施設や公共施設へのアクセス、中心市街地へのアクセスなどを考慮した持続可能な地域公共交通ネットワークの構築を検討する。
- 路線バスなど既存の公共交通について利用可能であれば検討する。